CGI-Park 名人シリーズ

受信名人 システム管理者マニュアル Ver1.2

本マニュアルの対象商品

✍受信名人 Ver 1.1.1

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

目次

1. はじめに
   1－1. 本ソフトの概要と主な特徴
   1－2. CGIの動作環境
   1－3. 本ソフトのファイル構成と付属ドキュメント
2. 初期設定
   2－1. ログファイルの拡張子の設定
   2－2. Perlのパスの設定
   2－3. 複数の製品を組み合わせて利用する場合の設定
   2－4. SSL領域で本ソフトをご利用いただく場合の設定
   2－5. 特定の領域でのみCGIが動作するサーバでの設定
3. サーバへのセットアップ
   3－1. サーバへのアップロード
   3－2. パーミッションの設定
   3－3. セットアップ開始
   3－4. セットアップ完了
4. 管理画面の設定
   4－1. 試用開始
   4－2. システム管理者パスワードの設定
   4－3. 環境設定
   4－4. フォルダ位置の設定
   4－5. 管理者アカウントの設定
5. フォームの登録・作成
   5－1. フォームの作成手順
   5－2. チャンネルの新規作成
   5－3. 入力フォームの項目設定
   5－4. 自動返信メール・受付メールの文面の雛形の作成
   5－5. 入力フォームのHTMLファイルを作成
   5－6. 入力内容の確認画面を作成
   5－7. 受付が完了した際に表示する「受付完了」画面を作成
   5－8. フォーム動作用CGIプログラムの設定
   5－9. 動作確認
6. その他の技術情報
   6－1. 管理画面へのログイン履歴
   6－2. 管理メニューの設定
   6－3. 本ソフトのライセンス情報について
   6－4. システムのアップデート
   6－5. システムの再構築

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

1－1. 本ソフトの概要と主な特徴

HPから問合せを受付できるフォームメールCGI

本ソフトはお問合せフォームや資料請求フォーム・アンケートフォームなどの複数のフォームto メールを作成・管理するためのシステムです。
お問合せフォーム等から受け取った情報は、メールで受信できるほか、管理画面上の一覧でも確認でき、CSVファイルとしてダウンロードすることも可能です。

主な特徴

1. **ひとつの受信名人で複数のフォームを作成・管理することができる**
「お問い合わせフォーム」や「資料請求フォーム」といった複数の入力フォームをチャンネルとして管理することが出来ます。
1つのホームページでも複数のメールフォームが必要な状況というのはよくあることで、必要なフォームの数だけフォームメールCGIを設置していたのでは、手間が掛かってしまいます。
本ソフトでは、複数のフォームメールを一手に管理できるので、非常に便利です。

2. **受け取った情報は管理画面の一覧表示で確認ができる**
お問合せフォーム等から入力された内容は、メールで受け取れるほか管理画面からも確認できます。
作成したチャンネルごとに一覧が作成され、管理画面上で入力されたすべての情報が参照できます。

3. **受け取った情報はCSVファイルにしてダウンロード可能**
受け取った情報は管理画面上からダウンロードすることが出来ます。ダウンロードしたファイルはエクセル等の表計算ソフトで編集できます。 また、ダウンロードするデータは受け取った期間で切り取ることが出来るので、「今月分のログをダウンロード」といった使い方も出来ます。

4. **自動返信メール等のメールの文面は管理画面から自由に作成出来る。**
お問い合わせフォーム等から送信された情報を受信するメールの文面や、入力したユーザーに対して、確認のために送信する自動返信メールの文面を管理画面上から自由に編集することが出来ます。

5. **入力ミス防止のためのご入力検出機能や入力文字自動変換機能あり**
入力された内容を事前に設定した条件に合わせてエラーを返したり、特定のルールに則って文字を変換したり出来ます。

誤入力検出機能
フォームから入力された内容をあらかじめ設定した条件と照らし合わせ、もし条件に一致しなければエラーを返す機能です。 たとえば、「入力必須」「半角英数字のみ」「ハイフンありの電話番号」といった設定が行なえます。

入力文字自動変換機能
フォームから入力された内容を設定した条件に合わせて変換する機能です。 たとえば「全角英数字を半角に変換」「メールアドレスを半角に変換」「半角カタカナを全角に変換」といった設定が行なえます。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

1－２　CGIの動作環境

本CGIは下記の条件を満たしているWEBサーバにおいて動作するように設計されています。
ただし、下記の条件を満たしている場合でも必ず動作するわけではありませんので、本ソフトを購入する前に必ずWEBサーバでの動作確認を行なってください。

【動作環境】

- サーバのOSがUNIX系のOSであること
- Perl 5.00503　以上がインストールされていること
- Sendmailが利用できること

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

1－3. 本ソフトのファイル構成と付属ドキュメント

✍ 本ソフトは以下のファイルで構成されています。

■フォルダ □ファイル	説明
■ jyusin1_1_1	解凍後に出来上がるフォルダ。後ろの数字はバージョンを表しています。（1_0_0 → Ver 1.0.0）
■ jyusin	本ソフトのフォルダ
■ cgi	各種CGIプログラムの格納フォルダ
□ conf.pl	システム基本情報の定義ファイル
□ folder.pl	フォルダ情報の定義ファイル
□ setup.cgi	システムセットアップ用プログラム
■ form	サンプルフォーム格納フォルダ
□ check_temp.htm	サンプル問い合わせフォームの確認画面
□ form.cgi	フォーム動作用のCGIプログラム
□ form_temp.htm	サンプル問い合わせフォーム
□ thanks_temp.htm	サンプル問い合わせフォームの受付完了画面
□ style.css	テーブルやセルのデザインを記述したスタイルシート
■ image	各種イメージファイル、スタイルシートを格納
□ *.gif, *.jpg	管理画面で利用している各種イメージファイル
□ font.css	フォント設定を記述したスタイルシート
□ style.css	テーブルやセルのデザインを記述したスタイルシート
□ window.js	管理画面で用いる各種JavaScript
■ log	ログファイル格納フォルダ
□ Ch01.db	サンプル問い合わせフォームの入力フォーム設定データ
□ channel.log	チャンネル情報設定ファイル
□ conf.log	環境設定定義ファイル
□ index.htm	ダミーHTMLファイル
□ meijin.log	システム基本情報定義ファイル
□ menu.log	管理メニュー定義ファイル
□ system.log	システム構成定義ファイル
□ temp0.db … temp2.db	入力フォーム設定データ雛形
□ temp_receive.mail	受信メール雛形
□ temp_send.mail	自動返信メール雛形
■ ドキュメント	本ソフトの付属ドキュメントを格納
□ ソフトウェア使用許可契約書.txt	ソフトウェア使用許可契約書（必ずお読みください）
□ システム管理者マニュアル.pdf	システム管理者用マニュアル

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.
CGI-Park WEB SYSTEM VENDOR

2－1. ログファイルの拡張子の設定

ログファイルの拡張子の設定について

システムのセットアップを行なう前に、ログファイルの拡張子の設定を行なう必要があります。デフォルトの拡張子は「log」となっています。

ログファイルの保存フォルダをWEB公開領域（ブラウザからアクセスすることが出来るフォルダ）に置く場合は拡張子を必ず「cgi」等の実行形式の拡張子に変更してください。「log」のままにしておくと、ブラウザから直接ログファイルにアクセスされた際、ログファイルの中身が表示されてしまい、大切な個人情報等が漏洩してしまう可能性があります。

✍ ログファイルの拡張子を変更する

「jyusin\cgi\conf.pl」というファイルをテキストエディタで開いてください。

13行　$log_ext = 'log';

と記述された箇所があります。これの 'log' の部分を変更したい拡張子に書き換えてください。
ただし、[html] [db] [mail] を使用することは出来ません。
実行形式の拡張子にしたい場合は [cgi] にすることをおすすめします。
[cgi] にすると、たとえブラウザから直接そのログファイルにアクセスして来た場合でも、「Internal Server Error」となり、ファイルを開くことは出来ません。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

2－２ Perlのパスの設定

Perlのパスについて

WEBサーバ上のどこにPerl処理系があるかを示すもので、設置するサーバの環境に合わせてPerlの実行ファイルに記述する必要があります。
不明な場合は、サーバにTelnetでアクセスし、

```
% which perl
```

と入力してみてください。画面にPerlのパスが表示されるはずです。
通常Perlのパスは『/usr/bin/perl』または『/usr/local/bin/perl』のどちらかになると思います。
本ソフトではデフォルトで『/usr/bin/perl』』としています。お使いのサーバと異なる場合は下記を参考にして必ず書き換えてください。

✍ Perlのパスを書き換える

『fyusin\cgi\setup.cgi』と『fyusin\form\form.cgi』という2つのファイルをそれぞれテキストエディタで開きます。1行目に

```
#!/usr/bin/perl
```

と記述されています。これを設置するサーバの環境に合わせて書き換えてください。
通常は以下のいずれかになると思います。

```
#!/usr/local/bin/perl
#!/usr/bin/perl
#!/bin/perl
```


Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

2－3. 複数の製品を組み合わせて利用する場合の設定

✍ **複数の商品を組み合わせて利用する**

当社の製品を複数ご利用いただく場合、商品ごとに別々にログインしたり、それぞれに管理者アカウントを作成していては作業効率が悪くなります。
そこで、当社製品を複数まとめて利用する場合、一つのWEB管理画面としてまとめて利用することが出来るようになっています。

✍ **設定方法**

すべての商品で共有する情報は、管理者アカウント情報とログイン履歴情報、ログインクッキーの保存名です。
この3つを同一の設定にすることで、管理画面を一つにまとめることが出来るのです。

まず、管理者アカウント情報とログイン履歴情報の保存先を統一させます。
そこで、この2つのファイルを保存するための共通のフォルダを作成してください。例では下記の場所にフォルダを作成したと仮定します。

```
/web/cgi-bin/jyusin/cgi/admin.cgi   ← 管理画面CGIの位置
/web/cgi-bin/jyusin/log             ← 共有ログファイルの既定値
/cgi-data/common                    ← 新しく作成した共有フォルダ
```

「jyusin\cgi\folder.pl」をテキストエディタで開いてください。

```
23行    ### ログファイル共有フォルダ
24行    $CoLogDir = “”;
```

という箇所があると思います。ここで先ほど作成した共通のログファイル保存フォルダの位置を指定します。

```
23行    ### ログファイル共有フォルダ
24行    $CoLogDir = “../../../../cgi-data/common ”;
```

以上で管理者アカウント情報とログイン履歴情報の共有化作業が完了しました。

続いて、ログインクッキーの名前を統一させます。デフォルトの状態では、すでに統一されているので特に修正する必要はありませんが、状況に応じて修正したい場合は、下記の要領で行ってください。

「jyusin\cgi\conf.pl」をテキストエディタで開きます。

```
22行    $cookie_name = ‘meijin ’;
```

という箇所がありますので、「‘meijin ’」という部分を変更したいクッキー名に書き換えてください。変更した名前はすべての商品にも反映させる必要があります。
以上で、共有化の設定が完了です。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

2－4. SSL領域で本ソフトをご利用いただく場合の設定

✍ 本ソフトをSSL領域で利用する場合は以下の設定を行なう必要があります。
この設定を行なわないと試用期間を開始したりライセンスの登録が正しく行なわれない可能性があります。

✍ **設定方法**
「yusin\cgi\conf.pl」をテキストエディタで開いてください。（下図参照）
ここで、37行目の $admin_cgi_path = ‘ ’;」にhttps:///～から始まる「yusin\cgi\admin.cgi」までのパスを指定します。

例） $admin_cgi_path = ‘https://www.cgi-park.com/cgi-bin/cgi/admin.cgi ’;

```
#■■■ admin.cgiまでのフルパス■■■
#試用期間の開始やライセンスの登録がうまくいかない場合に設定を行ないます。
#主にSSL領域に本CGIを設置した場合に設定が必要になります。
#設定を行う場合は、http://またはhttps://から始まるadmin.cgiまでのパスを指定してください。
# 例） $admin_cgi_path = ‘https://www.cgi-park.com/cgi-bin/cgi/admin.cgi’;

    $admin_cgi_path = '';
```


Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

2－5. 特定の領域でのみCGIが動作するサーバでの設定

✍ CGIなどの実行ファイルを置くディレクトリと、HTMLや画像ファイルなどを置くディレクトリが分かれているサーバに本ソフトを設置する場合、管理画面で利用する画像や外部スタイルシートを読み込むことができず、正常に管理画面を表示することができなくなります。そのため、画像ファイルやCSSファイルが格納されているフォルダを、読み込み可能な領域に移動する必要があります。

✍ **設定方法**

「yusin\cgi\folder.pl」をテキストエディタで開くと「イメージファイル格納フォルダ」の設定箇所があります。

```
### イメージファイル格納フォルダ
$ImageDir = "../image";
```

ここで、「"../image"」の箇所を移動先のパスに書き換えてください。相対パスで記述する場合は、admin.cgiから見た位置になります。
「$ImageDir」を書き換えたら、実際にその位置にimageフォルダを移動させてください。

次項「3－3. セットアップ開始」で行うセットアップの開始画面で図1のように表示されていれば「イメージファイル格納フォルダ」の位置が正しく設定されていることになります。
図2のようになっている場合は、「イメージファイル格納フォルダ」の位置が正しくないためスタイルシートが正しく適用されていないことを意味します。再度設定を確認してください。

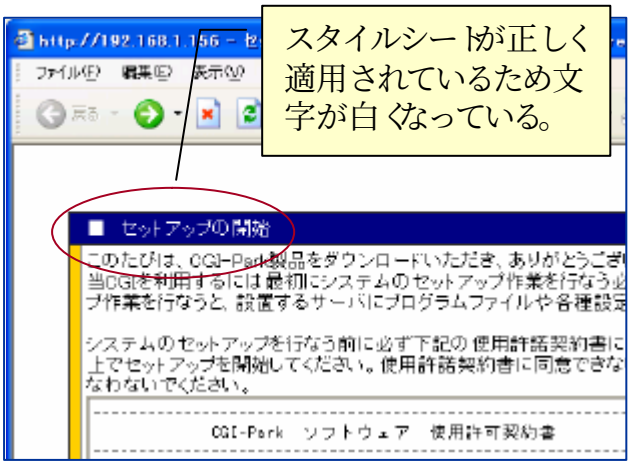


図1 :スタイルシートが適用されている状態

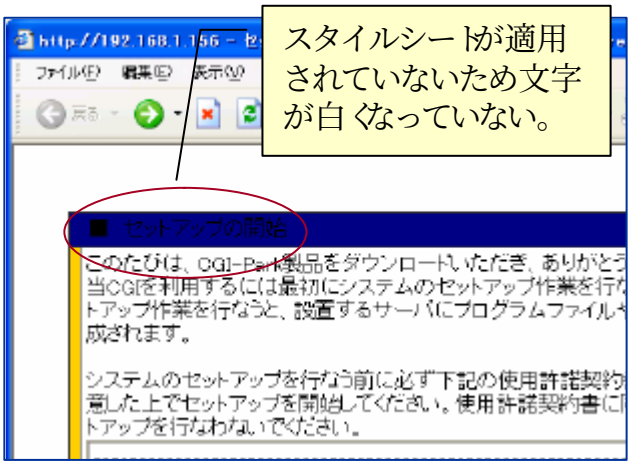


図2 :スタイルシートが適用されていない状態

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

3－1. サーバへのアップロード

システムの初期設定が完了したら、いよいよセットアップ作業を開始します。
まず、「jyusin」フォルダ以降をすべてFTPでサーバにアップロードします。
（「ドキュメント」フォルダはアップロードする必要はありません。）
ちなみに、「jyusin」というフォルダ名は、好きな名前に変更することが出来ます。必要に応じて変更してください。

例では、下記のようにcgi-binフォルダ以降にアップロードすると仮定します。

```
■ web                    ← WEB公開フォルダ
└■ cgi-bin               ← CGIファイル格納フォルダ
  └■ jyusin              ← 本ソフトのアップロード先
    ├■ cgi
    ├■ form
    ├■ image
    └■ log
```


Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

3－2 パーミッションの設定

本ソフトをサーバにアップロードしたら、お使いのサーバに合わせてパーミッションを変更してください。CGIの動作権限がowner権限かother権限かでパーミッションの設定方法が異なる場合があります。

■フォルダ □ファイル	Owner権限	Other権限
■ cgi-bin		
■ jyusin	変更不要	707
■ cgi	変更不要	707
□ conf.pl	変更不要	606
□ folder.pl	変更不要	606
□ setup.cgi	705	705
■ form	変更不要	707
□ check_temp.htm	変更不要	604
□ form.cgi	705	705
□ form_temp.htm	変更不要	604
□ thanks_temp.htm	変更不要	604
□ style.css	変更不要	604
■ image	変更不要	707
□ *.gif, *.jpg	変更不要	604
□ font.css	変更不要	604
□ style.css	変更不要	604
□ window.js	変更不要	604
■ log	変更不要	707
□ Ch01.db	変更不要	606
□ channel.log	変更不要	606
□ conf.log	変更不要	606
□ index.htm	変更不要	変更不要
□ meijin.log	変更不要	606
□ menu.log	変更不要	606
□ system.log	変更不要	606
□ temp0.db … temp2.db	変更不要	606
□ temp_receive.mail	変更不要	606
□ temp_send.mail	変更不要	606

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

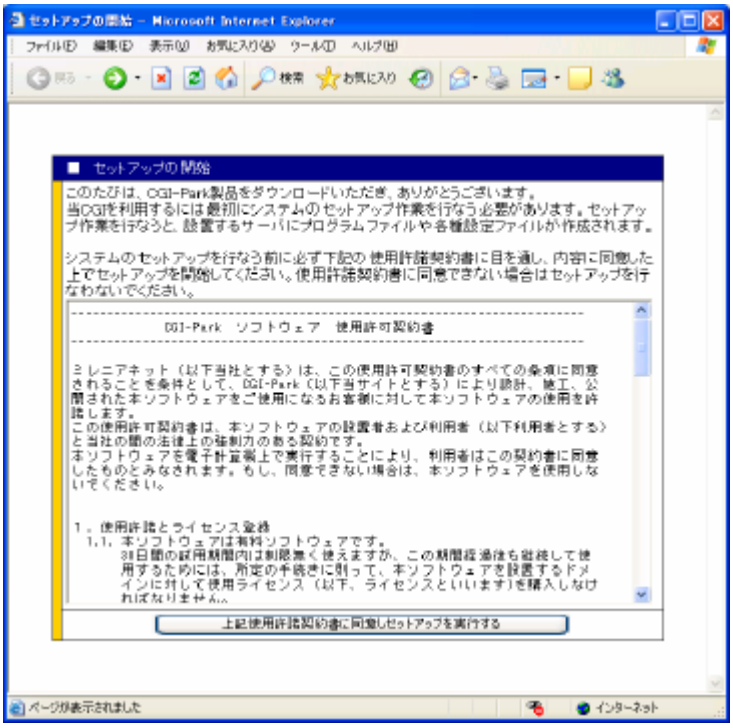
3― 3. セットアップ開始

✍ **セットアップ開始画面へアクセス**

サーバへファイルをすべてアップロードしたら、セットアップ開始ページ「cgi/setup.cgi」にアクセスします。
たとえば、設置するサイトのURLが「www.cgi-sample.com」で、サーバへのアップロード先が「cgi-bin/jyusin/」とすると、セットアップの開始画面は

http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/jyusin/cgi/setup.cgi

になります。このページをブラウザでアクセスすると、下記の画面が現れます。
下記の画面が現れず「Internal Server Error」等になる場合は、CGIの実行時にエラーが発生しています。前項「2― 2. Perlのパスの設定」や「3― 2. パーミッションの設定」が正しく行われているか再度ご確認ください。



セットアップ開始画面

✍ **セットアップ開始**

セットアップ開始画面では、本ソフトの「ソフトウェア 使用許可契約書」が表示されています。
必ず、契約書の内容に目を通し、同意した上でセットアップを開始してください。契約書内容に同意できない場合は、決してセットアップを行わないでください。

【セットアップエラー】

セットアップ開始ボタンをクリックした後、エラーメッセージが表示された場合は、何らかの原因によりセットアップが正常に行なわれなかった可能性があります。
その場合、本マニュアルを参考にし、再度正しくアップロードされているかご確認ください。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

3－4. セットアップ完了

セットアップが完了すると、システムに必要なプログラムファイルや設定ファイルが作成されます。
★マークが付いている箇所がセットアップ後に作成されたファイルやフォルダとなります。

■フォルダ　□ファイル	説明
■ jyusin	本ソフトのフォルダ
■ cgi	各種CGIプログラムの格納フォルダ
□ admin.cgi ★	**管理画面メインプログラム**
□ conf.pl	システム基本情報の定義ファイル
□ folder.pl	フォルダ情報の定義ファイル
□ form.cgi ★	**公開ページ用ＣＧＩプログラム**
■ data ★	**データファイル格納フォルダ**
■ form	サンプルフォーム格納フォルダ
■ html ★	**システムHTMLファイル格納フォルダ**
■ image	各種イメージファイル、スタイルシートを格納
■ lib ★	**CGIライブラリ格納フォルダ**
■ log	ログファイル格納フォルダ
□ index.cgi ★	**管理画面トップページ**

セットアップが完了すると、セットアップ用ＣＧＩプログラムがなくなり、変わりに管理画面用メインプログラム等が新に作成されます。

セットアップの開始画面が

http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/jyusin/cgi/setup.cgi

の場合、管理画面のトップは

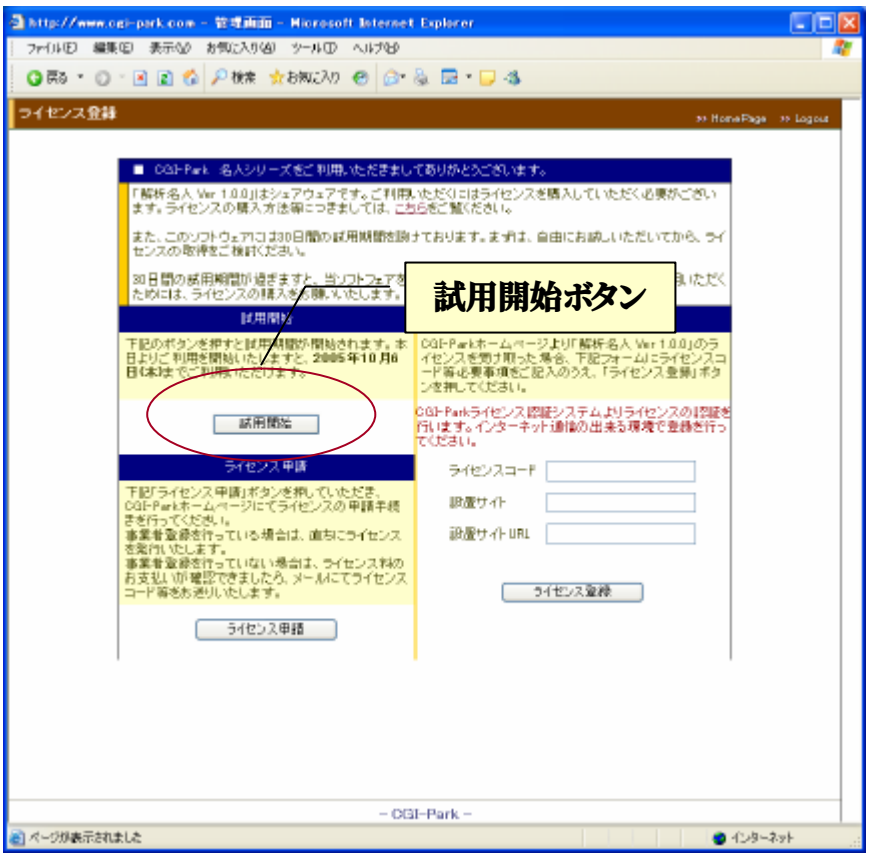
http://www.cgi-sample.com/cgi-bin/jyusin/index.cgi

となります。今後、本ソフトの管理画面にアクセスする際は、上記URLにアクセスしてください。
また、このページをお気に入りに登録しておくことをおすすめします。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－1. 試用開始

✍ **セットアップが無事完了すると下記の画面が現れます。**



本ソフトは30日間の試用期間が設けられていますので、ライセンスの購入を行なう前に試用してみたい場合は、「試用開始」ボタンをクリックしてください。30日間の試用期間が与えられ、自由に操作することができるようになります。

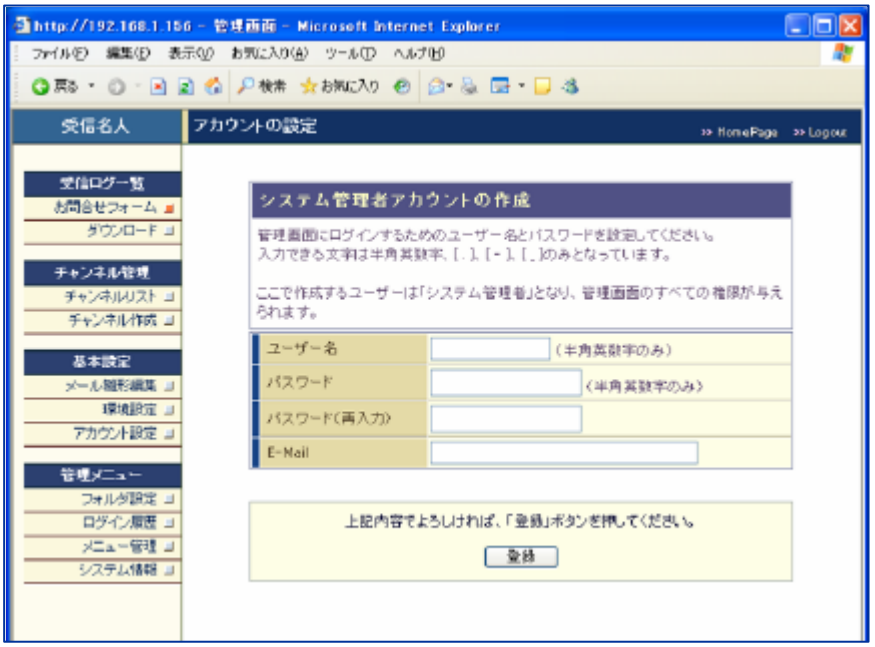
「試用開始」ボタンを押すと「リクエストされた URL は、このサーバ上には見つかりません。」という画面になって試用期間を開始できない場合は、前項「**2－4. SSL領域で本ソフトをご利用いただく場合の設定**」の設定を行う必要があります。本ソフトを実行する環境がSSL領域ではなくてもお使いのサーバの仕様上この設定が必要な場合があります。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－２　システム管理者パスワードの設定

✍ システム管理者のパスワードを設定する

管理画面に最初にアクセスすると、下記のような管理者アカウントの作成画面が現れます。
本ソフトでは管理者権限を「システム管理者」と「ホームページ管理者」の2つの権限の管理者アカウントを作成することができます。
まず最初にすべての管理権限が与えられるシステム管理者のアカウントを作成します。



システム管理者アカウントの作成画面

ユーザー名

半角英数字で入力してください。ユーザー名は、一度登録すると変更することは出来ませんので、ご注意ください。

パスワード

半角英数字で入力してください。入力されたパスワードは暗号化されて保存されるため、パスワードを紛失してしまっても確認することが出来ません。
システム管理者のパスワードを紛失して、管理画面にアクセスできなくなると、パスワードの再発行を行なえなくなりますので、十分にご注意ください。
（HP管理者のパスワードは、システム管理者が再発行することが出来ます）

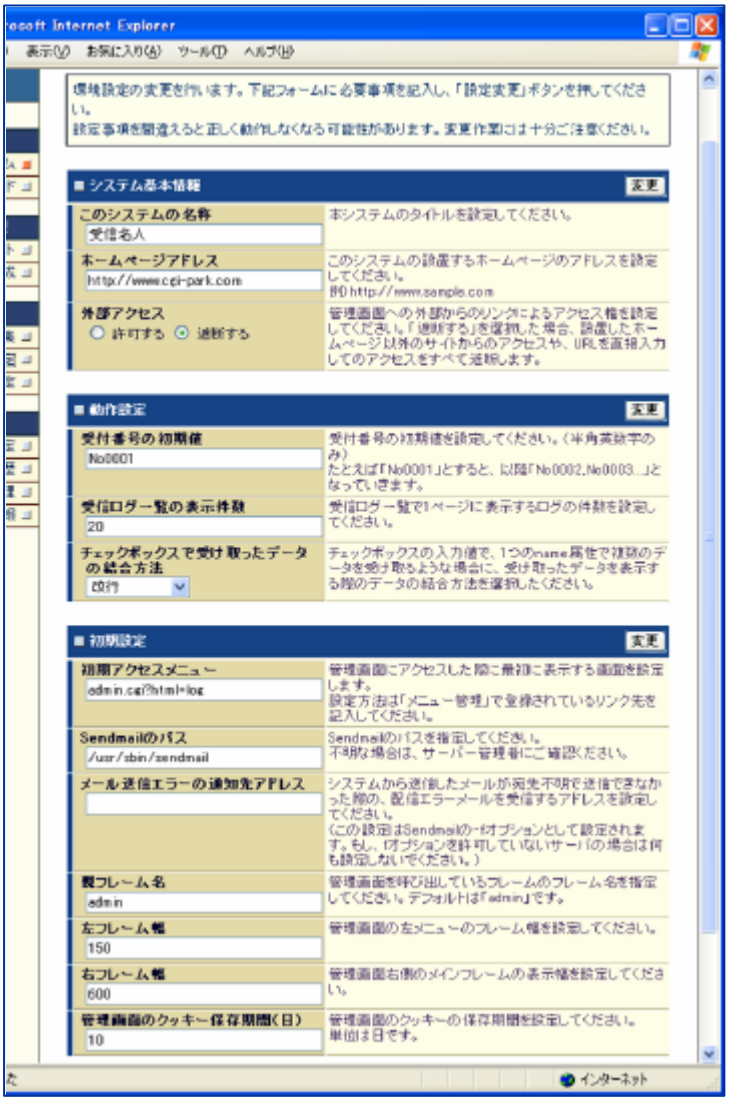
E-mail

管理者のメールアドレスの登録は、必須項目となっています。必ず入力してください。
管理者メールアドレスはシステムに異常が見つかった際の緊急連絡用に利用する場合があります。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－3. 環境設定 (1/3)

システム管理者の登録が完了すると「環境設定」画面に切り替わります。
環境設定では、管理画面の動作設定やログ解析の方法等の設定が行なわれます。



環境設定画面

【システム基本情報】

✍ **このシステムの名称**
この管理画面の名称を入力してください。ここで設定された名称は管理画面の左上に表示されます。

✍ **ホームページアドレス**
本ソフトを設置したホームページのURLを入力してください。
管理画面へ不正にアクセスされた場合、ここで設定されたアドレスにジャンプされます。

✍ **外部アクセス**
「外部アクセスを遮断する」に設定した場合、正規のログインページ以外からのアクセスをブロックし管理画面への不正なアクセスを遮断することが出来ます。
例えば、左側の管理メニューのリンク先をコピーし、リンク先のURLに含まれる管理画面に渡す引数を故意に変更してアクセスしてきた場合でも、その引数をシステムに渡す前にブロックすることが出来ます。

※マッキントッシュの一部のブラウザからアクセスした際、正しくアクセスしているのに、稀に外部アクセスとみなされて遮断してしまう場合があります。その場合、「許可する」にチェックを付け、この機能をオフにしてください。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－3. 環境設定 (2/3)

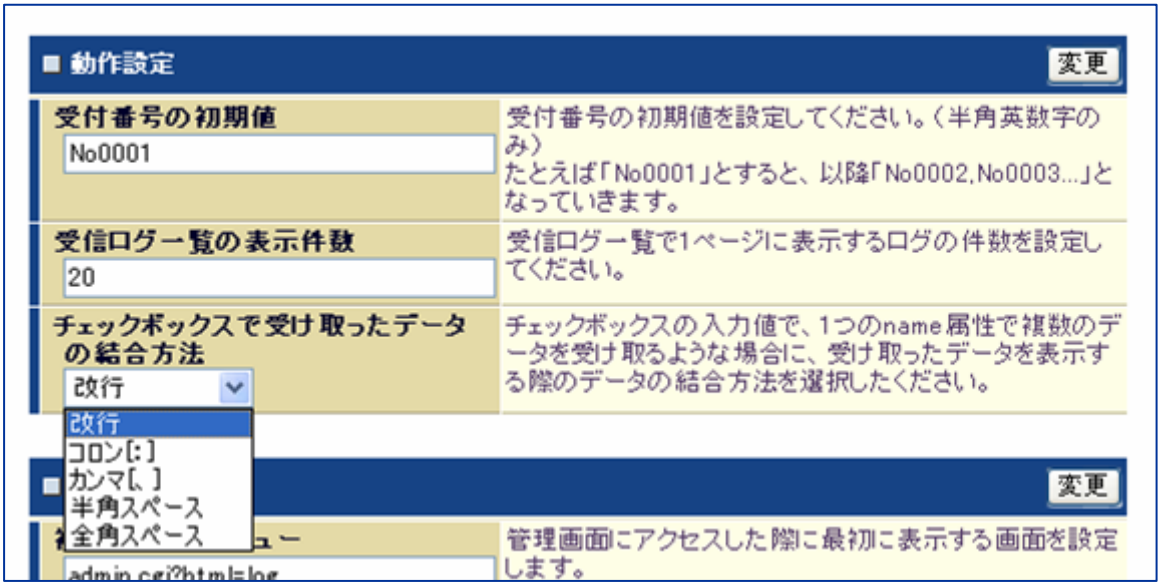
動作設定】

✍ **受付番号の初期値**
受付番号は、フォームに入力されたログの順番に番号が振られていきます。一番初めに登録されたログにここで設定する初期値が与えられ、以降＋1ずつ数字を足していき受付番号がふられていきます。
たとえば「No0001」とすると、以降「No0002,No0003…」となっていきます。
初期値として設定できるのは半角英数字のみとなります。ハイフンやコロンなどを入れることは出来ません。

✍ **受信ログ一覧の表示件数**
受信ログ一覧で1ページに表示するログの件数を設定してください。

✍ **チェックボックスで受け取ったデータの結合方法**
チェックボックスの入力値で、1つのname属性で複数のデータを受け取るような場合に、受け取ったデータを表示する際のデータの結合方法を選択してください。

たとえば、アンケートフォームで複数選択できる質問を作成した場合、チェックを付けた項目を確認画面で表示するときや、メールの中に表示する際に適用されます。



Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－3. 環境設定 (3/3)

【初期設定】

- **管理画面上でのログ表示件数**
  登録されているログの管理画面上での表示件数を設定してください。

- **初期アクセスメニュー**
  管理画面にアクセスした際に最初に表示する画面を設定してください。
  設定方法は「メニュー管理」で登録されているリンク先を記入してください。
  初期設定では「日別アクセス」が最初の画面になるように設定されています。

- **Sendmailのパス**
  サーバのSendmailまでのパスを指定してください。通常は
  「/usr/sbin/sendmail」か「/usr/lib/sendmail」が一般的です。不明な場合は、
  サーバー管理者にご確認ください。

- **メール送信エラーの通知先アドレス**
  システムから送信したメールが宛先不明で送信できなかった際の、配信エラーメールを受信するアドレスを設定してください。
  （この設定はSendmailの-fオプションとして設定されます。もし、fオプションを許可していないサーバの場合は何も設定しないでください。）

- **親フレーム名**
  管理画面を呼び出しているフレームのフレーム名を指定してください。デフォルトは「admin」です。
  管理画面メインプログラム「admin.cgi」を呼び出す際のフレームページ（index.html）のフレーム名になります。

- **左フレーム幅**
  管理画面の左メニューのフレーム幅を設定してください。デフォルトでは150ピクセルになっています。

- **右フレーム幅**
  管理画面の左メニューのフレーム幅を設定してください。デフォルトでは600ピクセルになっています。

- **管理画面のクッキー保存期間（日）**
  管理画面のクッキーの保存期間を設定してください。単位は日です。
  デフォルトでは10日間となっています。この日数より間を空けてアクセスすると再度ログインを求められます。

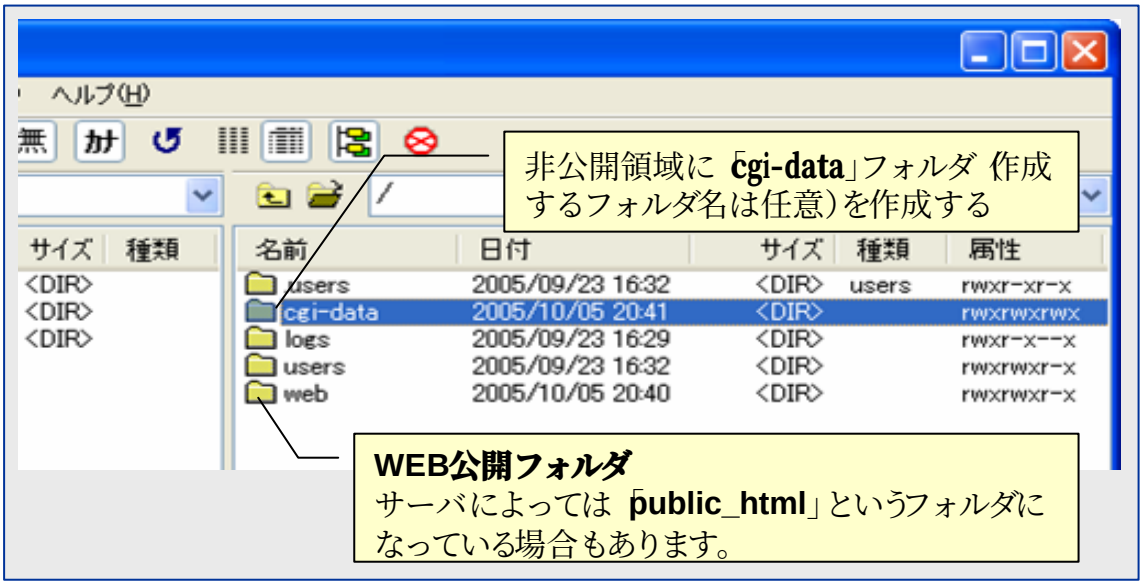
Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－4. フォルダ位置の設定 (1/2)

本ソフトをセットアップした最初状態では、ログファイルの格納フォルダなどがブラウザから直接アクセスすることの出来る「WEB公開領域」におかれています。そのままにしておくと悪意のある第三者から不正にアクセスされ、ログファイルの中身を盗み見られてしまう可能性が出てきます。
そのような危険な状態を回避するためにも、セットアップ後は必ずフォルダの移動を行なう必要があります。
下記の例を参考にログファイル格納フォルダを適切な位置に移動してください。

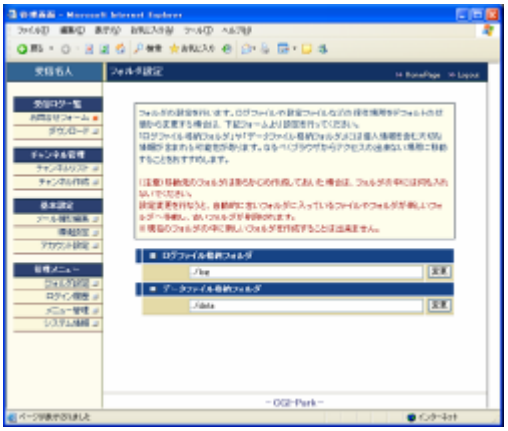
1. 非公開フォルダの作成

まず、「web」フォルダをWEB公開フォルダと仮定するとそれと同じ階層に「cgi-data」フォルダ（フォルダ名は任意）をFTPソフト等を使って作成します。



2 管理画面での操作

管理画面の左側のメニューより「フォルダ設定」をクリックする。



本ソフトでは下記のフォルダが設定可能フォルダとなっています。

【ログファイル格納フォルダ】
システムが生成したログファイルや設定ファイルが格納されています。

【データファイル格納フォルダ】
システムで使用する各種設定ファイル等が格納されています。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－4. フォルダ位置の設定 (2/2)

本ソフトを設置したフォルダが『web/cgi-bin/jyusin/」フォルダとすると、管理画面のメインCGIファイルは『web/cgi-bin/jyusin/cgi/admin.cgi」にあり、ここから見た、新しいフォルダまでの相対パスを指定して、「変更」ボタンを押すことで、フォルダとその中に格納されているファイルが移動します。
先ほど『cgi-data」フォルダを作成したので、そこに「ログファイル格納フォルダ」を移動する場合、移動先のフォルダ名を『jyusin_log」とすると、

移動前の位置 [/web/cgi-data/jyusin/log]
↓
移動後の位置 [/cgi-dta/jyusin_log/]

という移動を行なうので、新しいフォルダまでのパスは

[../../../../cgi-data/jyusin_log]

となります。
変更処理が正常に完了すると、変更前のログファイル格納フォルダ『web/cgi-bin/jyusin/log/」がなくなり、その中に入っていたフォルダやファイルはすべて『cgi-data/jyusin_log/」の中に移動します。

注意事項）

・移動先のフォルダはあらかじめ作成しておいた場合（jyusin_logフォルダをあらかじめ作っておいた場合）は、フォルダの中には何も入れないでください。万が一ファイル等が入っていた場合は、エラーとなり移動処理が行なえません。

・上記例の場合、[jyusin_log]フォルダは作成しておく必要はありませんが、[cgi-data]フォルダは事前に作成しておく必要があります。移動先のフォルダがない場合は移動処理が行なえません。

・現在のフォルダの中に新しいフォルダを作成して、そこに移動することは出来ません。

例） 移動前 /web/cgi-bin/jyusin/log/
↓
移動後 /web/cgi-bin/jyusin/log/new_log/

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－5. 管理者アカウントの設定 (1/2)

✍ 管理者アカウントについて

本ソフトでは、管理画面にアクセスする管理者を「システム管理者」と「ホームページ管理者」の二つの管理権限に分けて、管理しています。

✍ システム管理者

本ソフトを設置した方や、管理画面全般を管理する方で、本ソフトを実際に利用することが出来るように、設置するホームページに合わせた調整を行なったり、製品のバージョンアップを行なったりと、管理画面に対してすべてのアクセス権限を持っている管理者です。

✍ ホームページ管理者

本ソフトを設置した後に実際に管理画面を利用する方で、管理者アカウントの作成や、フォルダの移動といった設定作業を行なわず、通常の業務のみを行なう管理者となります。
ホームページ管理者には一部の管理メニューのみが表示され、設定関係のメニューは表示されなくなり、すっきりとした管理画面になります。

システム管理者の管理画面

ホームページ管理者の管理画面

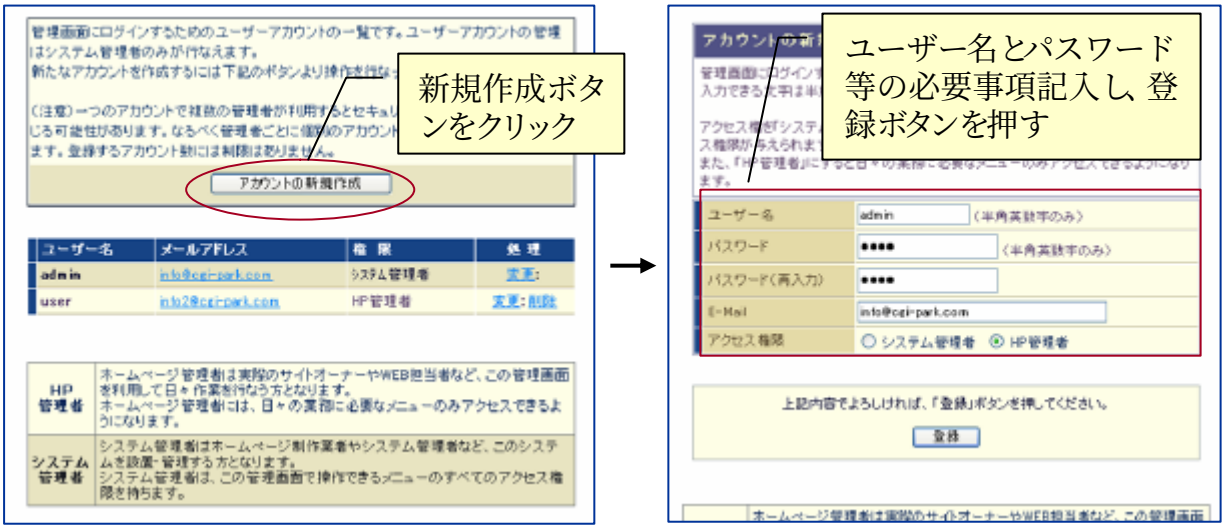
Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

4－5. 管理者アカウントの設定 (1/2)

✍ **管理者アカウントを作成する**

管理者アカウントの新規作成を行なうことができるのは、「システム管理者」のみとなります。もし、「ホームページ管理者」でログインしている場合は、システム管理者としてログインしなおしてください。

まず、管理メニューより「アカウント設定」をクリックしてください。
管理画面に登録されている管理者アカウントの一覧が表示されます。
新たに管理者アカウントを追加する場合は、「アカウントの新規作成」ボタンをクリックしてください。
管理者アカウントの登録フォームが現れるので、必要事項を記入して、「登録」ボタンを押してください。
これで、新しい管理者アカウントの登録が完了です。



ユーザー名

半角英数字で入力してください。ユーザー名は、一度登録すると変更することは出来ませんので、ご注意ください。

パスワード

半角英数字で入力してください。入力されたパスワードは暗号化されて保存されるため、パスワードを紛失してしまっても確認することが出来ません。

E-mail

管理者のメールアドレスの登録は、必須項目となっています。必ず入力してください。
管理者メールアドレスはシステムに異常が見つかった際の緊急連絡用に利用する場合があります。

アクセス権限

「システム管理者」または、「HP管理者」のどちらの権限でアカウントを作成するか選択してください。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－1. フォームの作成手順

管理画面でのチャンネル設定からフォームHTMLの作成までの手順を説明します。
1～3は管理画面側での操作になり、4～6はHTMLの作成作業となります。
HTMLファイルは普段利用しているHP制作ソフトで行なえます。

1. **チャンネルの新規作成**
   自動返信メールの送信の有無やメールの受信先の設定を行ないます。
   ↓
2. **入力フォームの項目設定**
   「お名前」「メールアドレス」「メッセージ」といったフォームを構成する入力項目の登録を行ないます。
   ↓
3. **自動返信メール・受付メールの文面の雛形の作成**
   フォームに入力したユーザーに返信する自動返信メールや管理者宛に送信する受付メールの文面を作成します。
   ↓
4. **2で設定した項目設定に基づいて入力フォームのHTMLファイルを作成**
   ホームページに公開するフォームの作成を行ないます。
   ↓
5. **入力内容の確認画面を作成**
   フォームに入力し「確認画面へ」のボタンを押した後に表示するページを作成します。
   ↓
6. **受付が完了した際に表示する「受付完了」画面を作成**
   確認画面から「送信」ボタンを押した際に表示する受付完了ページの作成を行ないます。
   ↓
7. **フォーム動作用CGIプログラムの設定**
   フォームを実際に動かすためのCGIプログラムの設定を行ないます。
   ↓
8. **動作確認**
   4～7で作成したファイルをサーバにアップロードし動作確認を行ないます。

※ 4のフォームHTMLファイルがすでに作成している場合は、そのフォームに合わせて2の項目設定を行なってください。

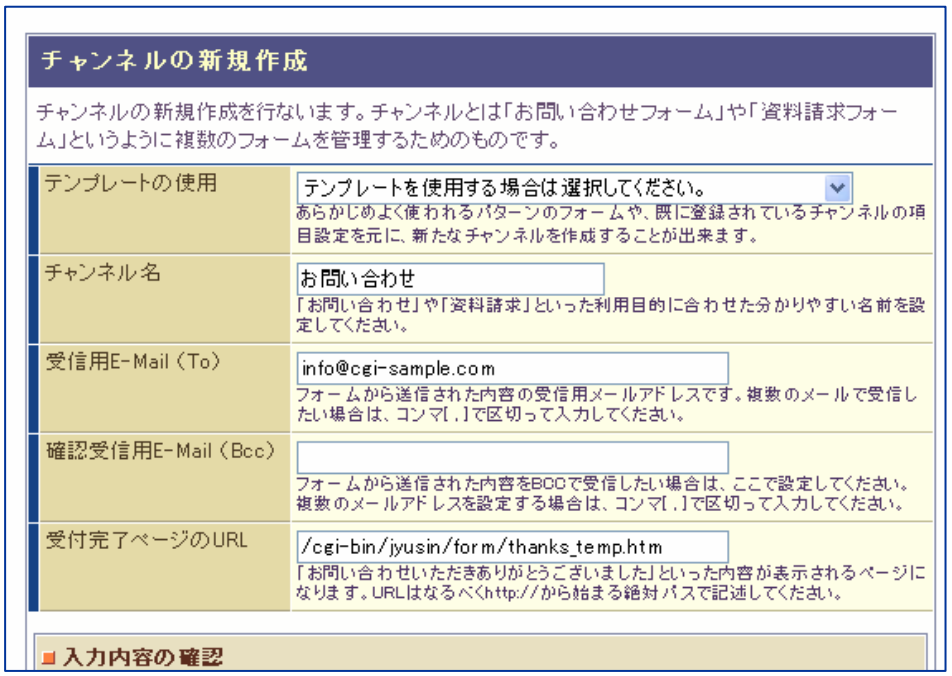
Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－2 チャンネルの新規作成 (1/2)

本ソフトで管理する「お問い合わせフォーム」や「資料請求フォーム」といった各種フォームは、チャンネルとして管理されます。チャンネルは必要に応じて複数作成することが出来ます。（チャンネルの数に制限はありません）

※本マニュアルでは「お問い合わせフォーム」を作成することを前提に説明して行きます。

- **テンプレートの使用**
  あらかじめよく使われるパターンの**フォームの項目設定**を、雛形として使用できるようになっています。標準で「お問い合わせ（会社項目あり）」と「お問い合わせ（詳細）」が用意されています。
  また、すでにチャンネルを作成している場合は、そのチャンネル設定を雛形として作成することが出来ます。
  ※テンプレートからコピーされるのはフォームの項目設定で、受信用メールアドレス等の設定項目はコピーされません。
- **チャンネル名**
  「お問い合わせ」や「資料請求」といった利用目的に合わせた分かりやすい名前を設定してください。
- **受信用E-Mail（To）**
  フォームから送信された内容の受信用メールアドレスです。複数のメールで受信したい場合は、コンマ[,]で区切って入力してください。
- **確認受信用E-Mail（Bcc）**
  フォームから送信された内容をBCCで受信したい場合は、ここで設定してください。複数のメールアドレスを設定する場合は、コンマ[,]で区切って入力してください。
- **受付完了ページのURL**
  「お問い合わせいただきありがとうございました」といった内容が表示されるページになります。URLはなるべく絶対パスで記述してください。



チャンネルの新規作成画面

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－２　チャンネルの新規作成　(2/2)

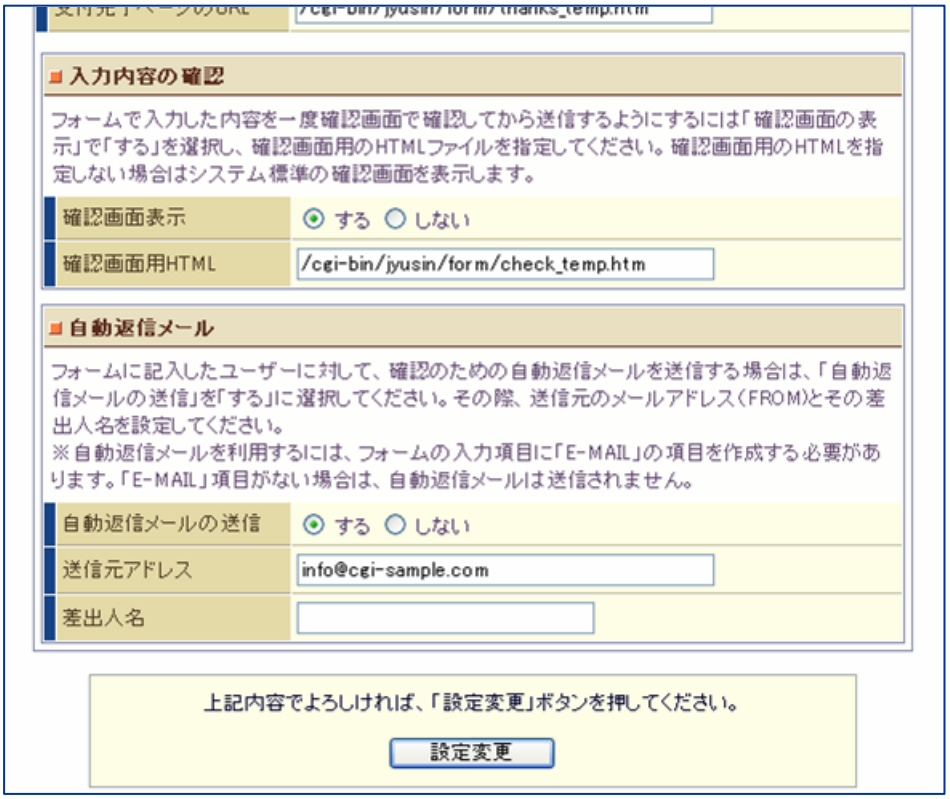
✍ 入力内容の確認

フォームで入力した内容を一度確認画面で確認してから送信するようにするには「確認画面の表示」で「する」を選択し、確認画面用のHTMLファイルを指定してください。
確認画面HTMLの指定方法は相対パスではなく絶対パスで記述することをおすすめします。相対パスで記述する場合は、admin.cgiから見たパスを記述してください。
確認画面用のHTMLを指定しない場合はシステム標準の確認画面を表示します。
システム標準の確認画面は「/jyusin/form/check_temp.htm」になります。

入力内容の確認を「しない」に設定した場合でも、入力内容に誤りがあった場合は、確認画面を表示しエラーメッセージを表示しますので、確認画面HTMLは必ず用意してください。入力内容にエラーがない場合は、確認画面を表示しないでそのまま送信を行ないます。

✍ 自動返信メール

フォームに記入したユーザーに対して、確認のための自動返信メールを送信する場合は、「自動返信メールの送信」を「する」に選択してください。その際、送信元のメールアドレス(FROM)とその差出人名を設定してください。
※自動返信メールを利用するには、フォームの入力項目に「E-MAIL」の項目を作成する必要があります。「E-MAIL」項目がない場合は、自動返信メールは送信されません。



チャンネルの新規作成画面

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－3. 入力フォームの項目設定 (1/4)

チャンネルの作成が終わると、次に入力フォームの項目設定を行ないます。問い合わせフォームの場合「名前」「メールアドレス」「メッセージ」といった項目が必要で、フォームを構成する入力項目をここで登録して行きます。

まず、図1の画面より「新規登録」ボタンをクリックすると図2に切り替わります。

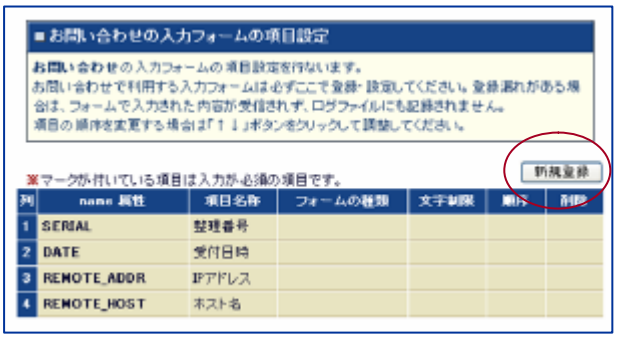


図1 :入力項目一覧

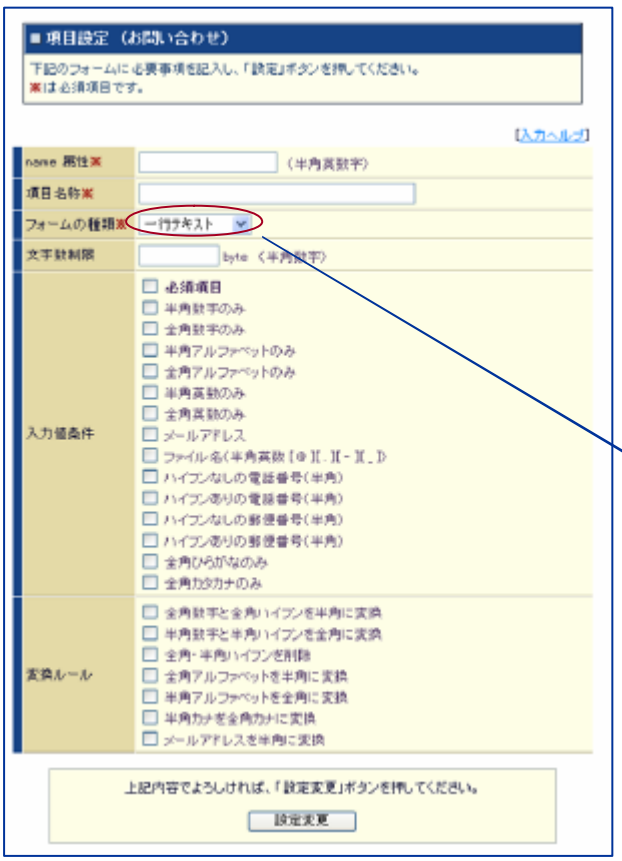


図2 :入力項目の設定

図3 :フォームの種類

name 属性

フォームのNAME属性を設定してください。NAME属性とはINPUTタグのNAME属性となります。入力できるのは半角英数字のみとなります。

項目名称

項目名称とは、入力項目の名前になり、「名前」「メールアドレス」といった名称を設定します。

フォームの種類

フォームの種類は図3のように6種類あり、用途に合わせて選択してください。
フォームの種類で「E-Mail」を選択した場合、この項目に入力されたメールアドレスが自動返信先のメールアドレスとなります。
チャンネルの基本設定で自動返信メールを「する」に設定した場合は必ず一箇所でこの「E-Mail」項目を作成してください。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－3. 入力フォームの項目設定 (2/4)

✍ **文字数制限**
一行テキストまたは、複数行テキストを選択した際、フォームに入力できる文字数の最大値を設定します。
設定値は半角英数字1文字分を1biteとするため日本語一文字の場合は2biteとなります。
たとえば、日本語で10文字以内という設定を行う場合は文字数制限は[20 bite]となります。

✍ **入力値条件**
入力される文字列に対して条件を設定します。設定できる条件は下記のようになります。
ここで入力条件を設定することで、入力漏れや誤記入を未然に防ぐことが出来ます。

条件名	説明
必須項目	入力を必須にしたい場合に使用。
半角数字のみ	0～9までの半角数字のみ受け付ける
全角数字のみ	０～９までの全角数字のみ受け付ける
半角アルファベットのみ	a-Zまでの半角英語のみ受け付ける
全角アルファベットのみ	ａ－Ｚまでの全角英語のみ受け付ける
半角英数のみ	半角英数のみ受け付ける
全角英数のみ	全角英数のみ受け付ける
メールアドレス	メールアドレスの構文に一致したもののみ受け付ける
ファイル名（半角英数 [@][.][-][_]）	半角英数と[@][.][-][_]のみ受け付ける
ハイフンなしの電話番号（半角）	10桁か11桁の半角数字のみ受け付ける 例） 0112223333、09012345678
ハイフンありの電話番号（半角）	12桁か13桁のハイフンが入った半角数字のみ受け付ける 例） 011-222-3333、090-1234-5678
ハイフンなしの郵便番号（半角）	7桁の連続した半角数字のみ受け付ける 例） 0010001
ハイフンありの郵便番号（半角）	3桁半角数字＋ハイフン（-）＋4桁半角数字の形のみ受け付ける 例） 011-0001
全角ひらがなのみ	全角ひらがなのみ受け付ける
全角カタカナのみ	全角カタカナのみ受け付ける

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－3. 入力フォームの項目設定 (3/4)

✍ 変換ルール

変換ルールとは、入力された文字列を指定した条件で変換する機能です。たとえば全角数字で入力されたものを半角数字に変換したり、全角で入力されたメールアドレスを半角に変換したりすることが出来ます。
変換ルールは下記の7種類用意しています。

変換ルール	変換例
全角数字と全角ハイフンを半角に変換	011－111－2222 → 011-111-2222
半角数字と半角ハイフンを全角に変換	011-111-2222 → 011－111－2222
全角・半角ハイフンを削除	011-111-2222 → 0111112222
全角アルファベットを半角に変換	ａｂｃｄｅｆｇ → abcdefg
半角アルファベットを全角に変換	abcdefg → ａｂｃｄｅｆｇ
半角カナを全角カナに変換	ｱｲｳｴｵ → アイウエオ
メールアドレスを半角に変換	test@ｃｇｉ－ｔｅｓｔ．ｃｏｍ → test@cgi-test.com

入力値条件と変換ルールをうまく組み合わせることで、無駄な入力ミスを削減し、正しい内容で情報を受け取ることが出来るようになります。また、ユーザーにも無駄なエラーを返すことなく処理できるのでユーザーへの利便性も向上します。

たとえば電話番号の入力を求める場合、変換ルールで「全角数字と全角ハイフンを半角に変換」を選択し、入力値条件で「ハイフンありの電話番号（半角）」を選択することで、たとえユーザーが全角数字で電話番号を入力された場合でも変換ルールで半角に変換されるので、エラーを返すことなく正しい電話番号を受け取ることが出来きます。

メールアドレスの項目では、入力間違いがあると自動返信メールを送信することが出来なくなりますので、必ず変換ルールで「メールアドレスを半角に変換」を選択し、入力値条件で「メールアドレス」を選択してください。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－3. 入力フォームの項目設定 (4/4)

すべての入力項目の設定が完了したら、図 1のように入力項目の一覧が作成されます。設定した項目で修正箇所があれば「name属性」欄のリンクをクリックすると、編集画面になります。項目を削除する場合は「削除」をクリックしてください。
入力項目の順序は、確認画面の表示する順番やログファイルとしてダウンロードする際のログファイルの列の順番になります。列の順序を変更したい場合は「↑ ↓」をクリックして順序を調整してください。ただし、先頭の 1, 2列目と最後の 1, 2列目の位置は固定されているため変更することは出来ません。

※すでにログファイルが存在している場合は、項目を追加したり順序を入れ替えると、ログファイルに矛盾が生じてしまいます。決して行なわないでください。
フォームを運用する前に、必ず設定を完了させておいてください。

列	name 属性	項目名称	フォームの種類	文字制限	順序	削除
1	SERIAL	整理番号				
2	DATE	受付日時				
3	subject ※	お問合せ内容	一行テキスト		↓	削除
4	name ※	お名前	一行テキスト		↑ ↓	削除
5	kana ※	フリガナ	一行テキスト		↑ ↓	削除
6	email ※	E-MAIL	E-Mail		↑ ↓	削除
7	add1	都道府県	セレクトボックス		↑ ↓	削除
8	add2	住所	一行テキスト		↑ ↓	削除
9	phone	電話番号	一行テキスト		↑ ↓	削除
10	message	メッセージ	複数行テキスト		↑	削除
11	REMOTE_ADDR	IPアドレス				
12	REMOTE_HOST	ホスト名				

図 1 :入力フォームの項目設定内容

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－4. 自動返信メール・受付メールの文面の雛形の作成 (1/2)

フォームから受け取った情報をメールで送信するときに使用する、メールの雛形を作成します。
メールの雛形の編集を行なうには、まず管理メニューの「メール雛形編集」を選択します。登録されているチャンネルそれぞれに「受付メール」「自動返信メール」の編集メニューがあります。（図1）

- **受付メール**
  ユーザーがフォームで入力した内容を、管理者が受け取るメールです。

- **自動返信メール**
  入力したユーザーが内容確認のために受け取るメールです。

[定型文]となっている箇所は、システム標準のメール雛形が利用されます。
メールの雛形を個別に編集したい場合は、対象のメールを選択して、編集作業を行なってください。個別に設定されたメール雛形は[オリジナル]と表示されます。
作成したオリジナルの雛形を削除したい場合は、【削除】をクリックしてください。

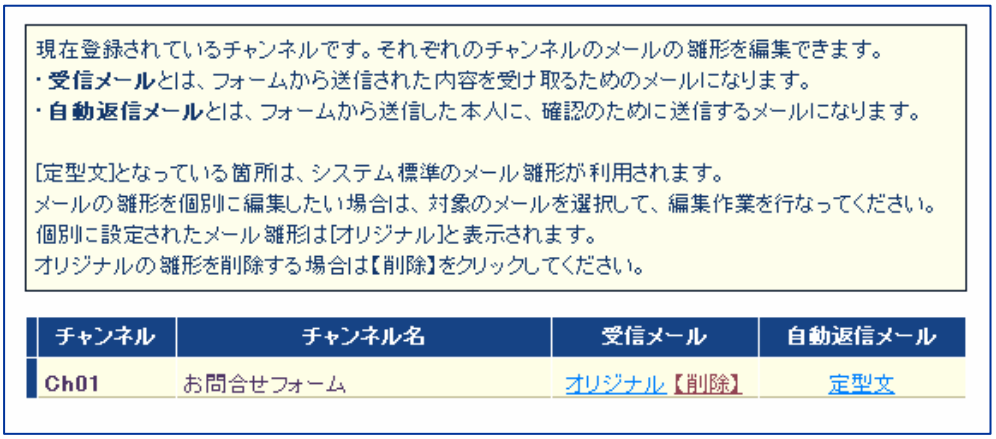


図1：メール雛形編集

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－4. 自動返信メール・受付メールの文面の雛形の作成 (1/2)

✍ メール雛形の作成方法

フォームに入力した内容をメールに反映させるためには図 2の変換キーを利用します。変換キーはフォームの項目設定で設定した「name 属性」の値の両サイドに「#」を付けた形「#name 属性#」という形式で利用します。

定型分の状態では、図 1のように登録されている入力項目の変換キーがすべて入っていますので、文字のバランスを調整したり、文面の最初と最後に独自の文章を加えるだけで、雛形は完成します。
変換キーはメール本文の他にメール件名にも利用できます。

✍ 変換キーの使い方

たとえば「お名前」の入力欄のname 属性が「name」だとするとメール本文に「#name#」と入れると、そこが「お名前」として入力された内容が置き換わります。

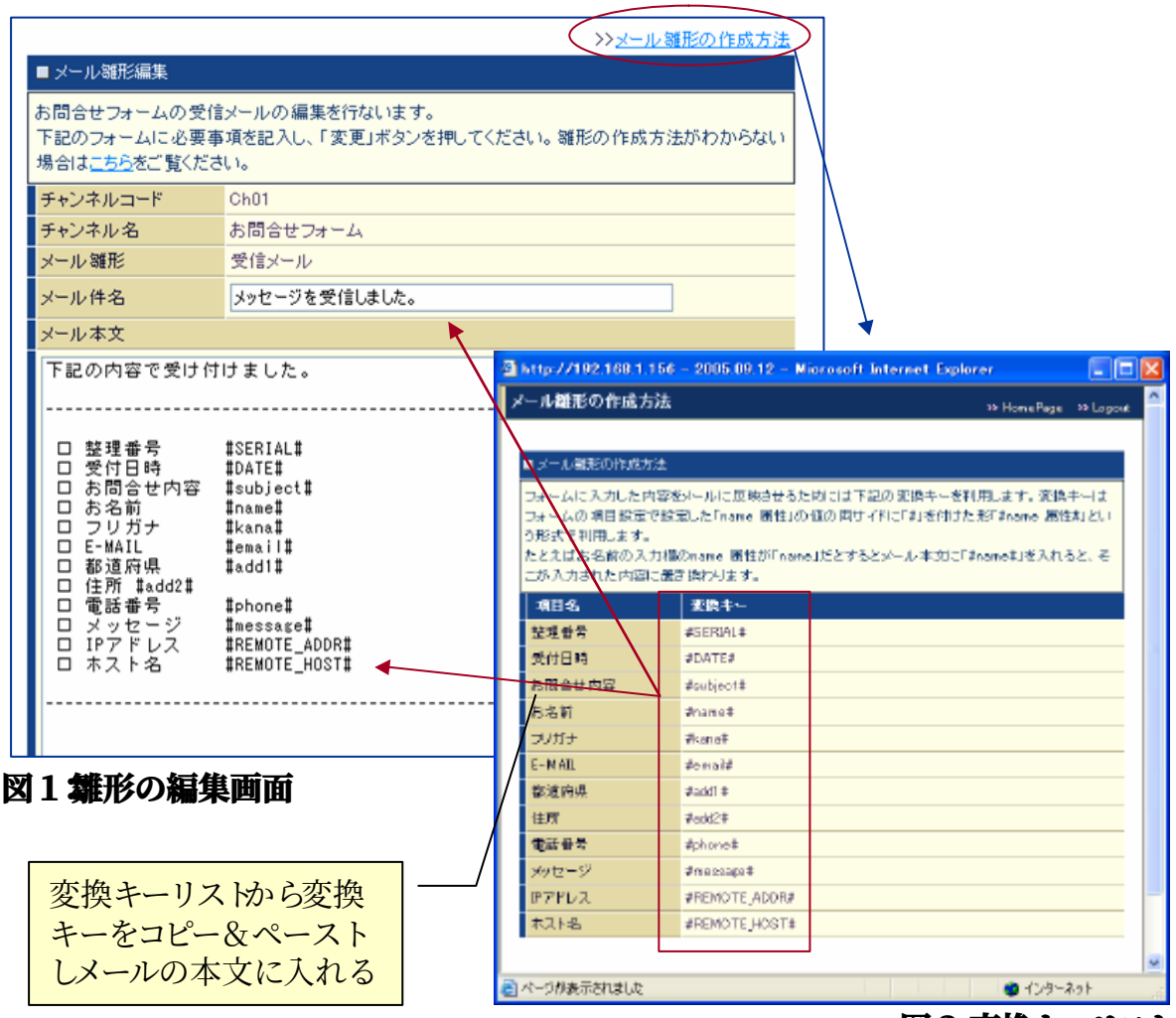


図 1 雛形の編集画面

変換キーリストから変換キーをコピー＆ペーストしメールの本文に入れる

図 2 変換キーリスト

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－5. 入力フォームのHTMLファイルを作成

入力フォームは普段利用しているHP製作ソフトで行なうことができます。
はじめはサンプルフォーム「/yusin/form/form_temp.htm」を参考に作成してください。

✍ **INPUTタグの設定方法**
入力フォームを構成するINPUTタグは必ず「入力フォームの項目設定」で設定したとおりに作成してください。
たとえば「お問い合わせ内容」という項目では、name属性は「subject」でフォームの種類は1行テキストとなっているので、INPUTタグは以下のようになります。

```
<INPUT size="50" type="text" name="subject">
```

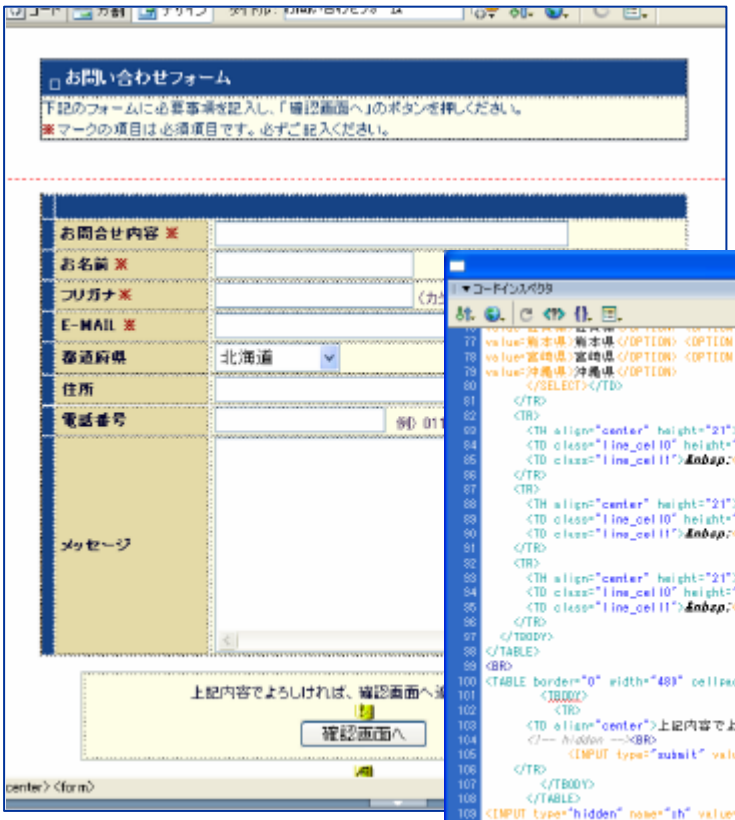
✍ **非表示フィールド(HIDDEN)の設定**
FORMタグの中に必ず下記の非表示フィールドを入れてください。

```
<INPUT type="hidden" name="ch" value="Ch01">
```

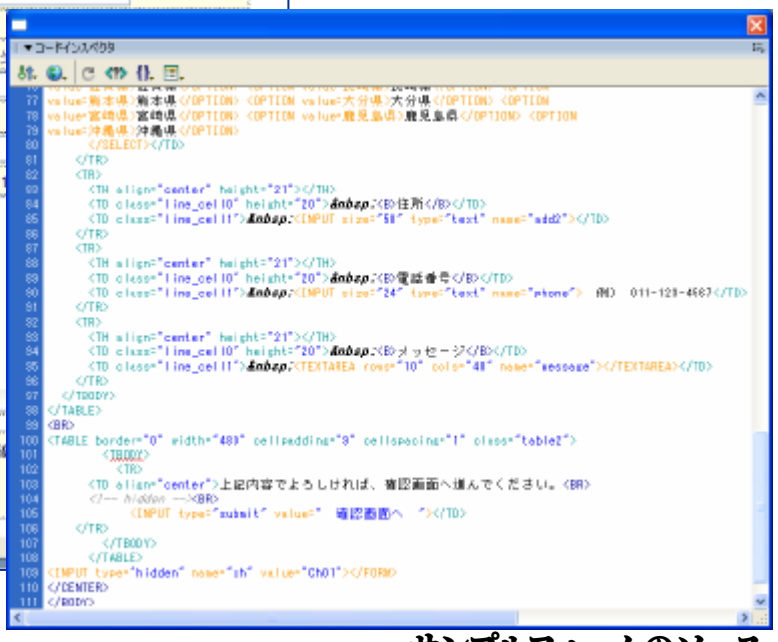
value="Ch01"となっている部分は、対応するチャンネルのチャンネルコードが入ります。
複数のチャンネルを作成した場合は、必ず対応するチャンネルコードを設定してください。
※チャンネルコードは管理メニューの「チャンネルリスト」で確認できます。

✍ **フォームアクションの設定**
FORMタグのアクション設定には、下記のように「form.cgi」を設定してください。
※form.cgiについては「5－8. フォーム動作用CGIプログラムの設定」をご覧ください。

```
<FORM action="form.cgi" method="POST">
```



入力フォームのサンプル



サンプルフォームのソース

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－6. 入力内容の確認画面を作成 (1/2)

フォームから入力された内容を確認するための確認画面の雛形を作成します。
確認画面の雛形は作成したチャンネルの数だけ作成できます。また、一つの雛形を複数のチャンネルで利用することも出来ます。
初めはサンプルの確認画面（/yusin/form/check_temp.htm」図1）を元に作成することをおすすめします。その際、上書き保存はせずに別名で保存してください。

① まず、確認画面サンプルのソースを見ると（図2）、「<!? CUT ✍」というコメントタグが2箇所にはいっていると思います。このコメントタグに挟まれた<TR>～</TR>までの部分のHTMLタグが入力項目一項目分の表示用HTMLになり、この部分が作成した項目の数だけ繰り返されます。
そして、このコメントタグの間には以下の3つの変換キーを入れる必要があります。

- ✍ **#name#**
  入力項目の名称が入ります。
- ✍ **#value#**
  入力された値が入ります。
- ✍ **#error#**
  入力にエラーがあった場合、エラーメッセージを表示します。

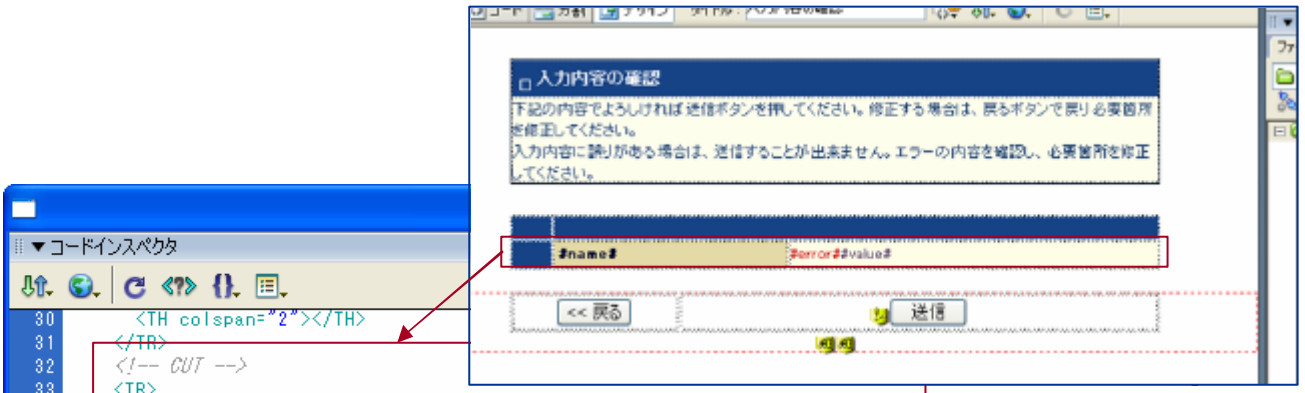


図１確認画面サンプル

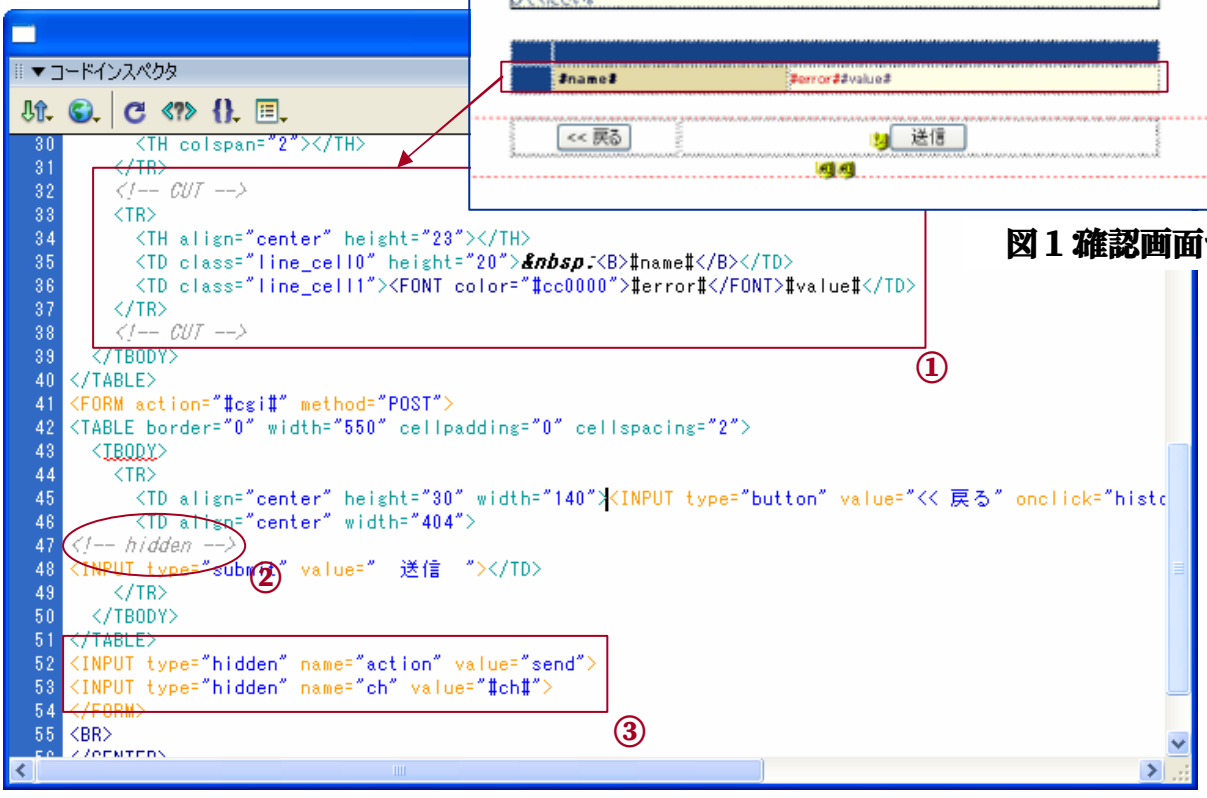


図２HTMLソース

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－6. 入力内容の確認画面を作成 (2/2)

①の方法では、たとえば住所の欄で「都道府県」と「住所」の部分で2行に別れてしまいます。これを確認画面では、都道府県と住所をくっつけて「北海道札幌市○○区・・・」という風に表示させたい場合は、前ページの作成方法ではなく図3のように、すべての変換キーを埋め込んだ確認画面を作成することも出来ます。

入力内容を表示させるには「#name属性#」といった形でHTMLの中に埋め込んでいきます。埋め込む場所や順番に制限はありません。

エラーメッセージの表示は「#error_name属性#」という風になります。
※項目設定で入力値条件をなにも設定していない場合は、エラーが出ることはありませんので、省略することが出来ます。

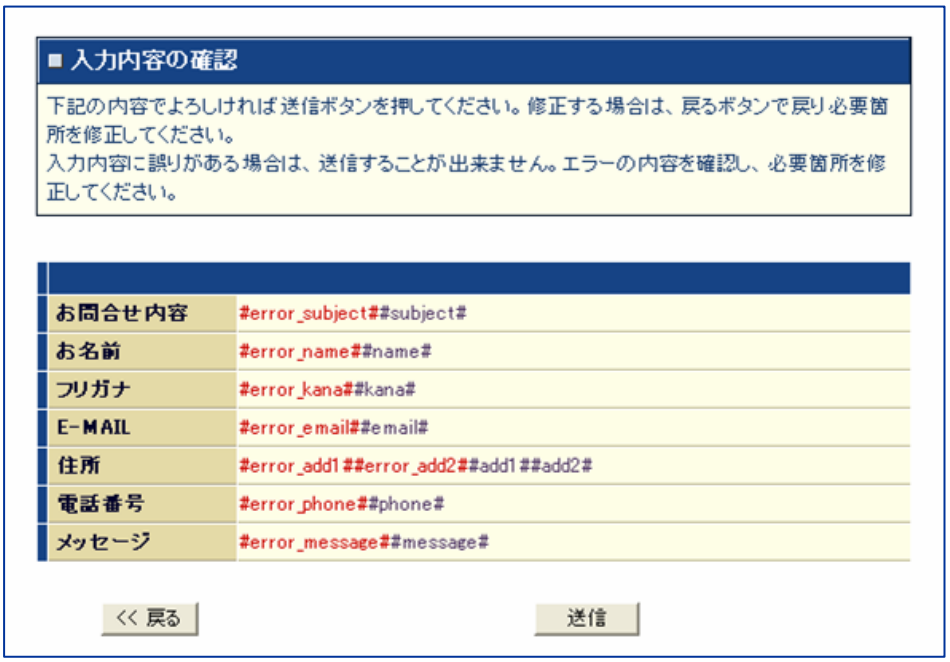


図３確認画面の作成方法その2

② <FORM>タグと</FORM>タグの間に必ず下記のコメントタグを入れてください。

```
<!? hidden -->
```

このコメントタグを入れ忘れると、フォームから入力された内容を受け取れません。

③ 確認画面から送信を行なう際に、下記の隠しフィールド(HIDDEN)を設定します。

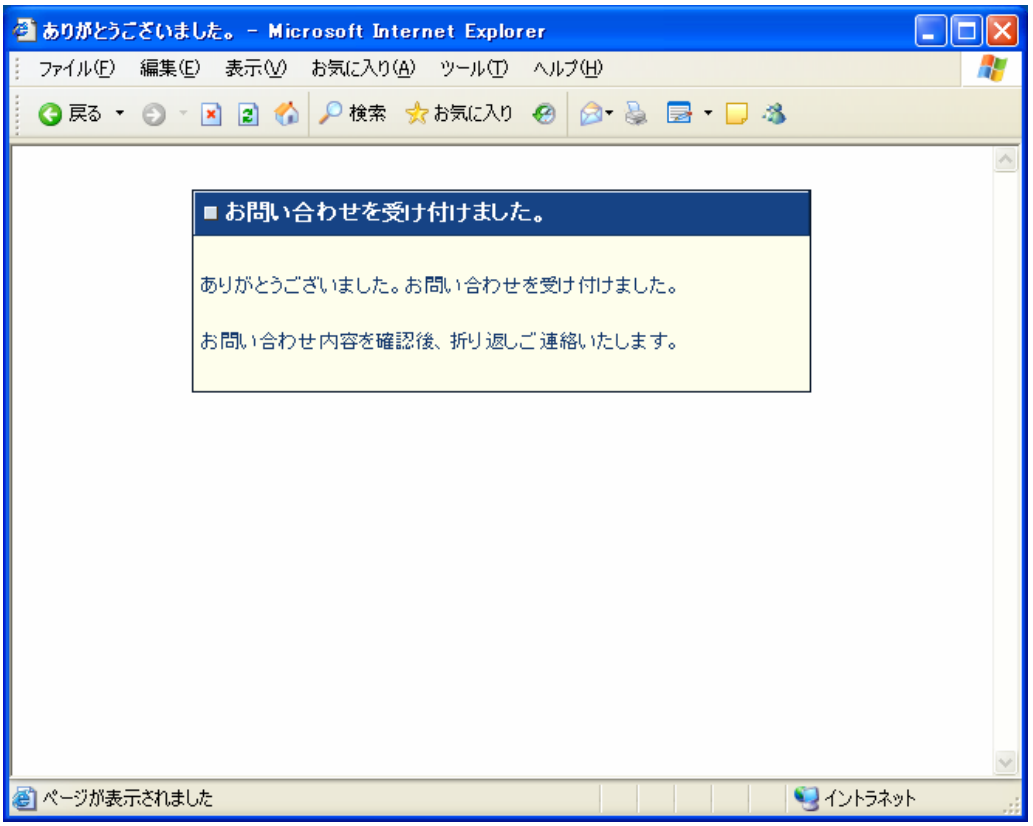
```
<INPUT type= "hidden "name= "action "value= "send ">
<INPUT type= "hidden "name= "ch "value= "#ch# ">
```

隠しフィールドは複数のチャンネルを作成した場合でもすべて同一の内容になります。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－7. 受付が完了した際に表示する 受付完了」画面を作成

受付完了画面は、通常のHTMLページを作成する要領で作成してください。
正常にフォーム内容が送信されると、受付完了画面にジャンプします。



受付完了画面

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

5－8. フォーム動作用CGIプログラムの設定

フォーム動作用CGIプログラムはデフォルトで「/jyusin/form/form.cgi」の位置にあります。
このCGIプログラムはフォームを実際に動かすためのプログラムで、前節で作成したフォームの確認画面のファイルと同じフォルダ内に入れてください。

✍ 利用環境に合わせた設定事項

本CGIをテキストエディタで開き、利用する環境に合わせて設定を書き換える必要があります。下記の手順に従って設定の変更を行なってください。

1. **Perlのパスの設定**
   ファイルの1行目にある「#!/usr/bin/perl」という箇所をサーバーの環境に合わせて書き換えてください。

2. **CGIディレクトリの位置**
   本CGIファイルを設置したフォルダから見たCGIディレクトリ（/jyusin/cgi/）までのパスを指定してください。
   たとえば下記のようなフォルダ構成で本CGIスクリプトを設置する場合は以下のような設定になります。

```
/cgi-bin/jyusin/cgi/          ←CGIディレクトリの設置場所
/contact/check.html           ←フォームの確認画面
/contact/form.cgi             ←本CGIファイル

$home_dir = '../cgi-bin/jyusin/cgi';
```

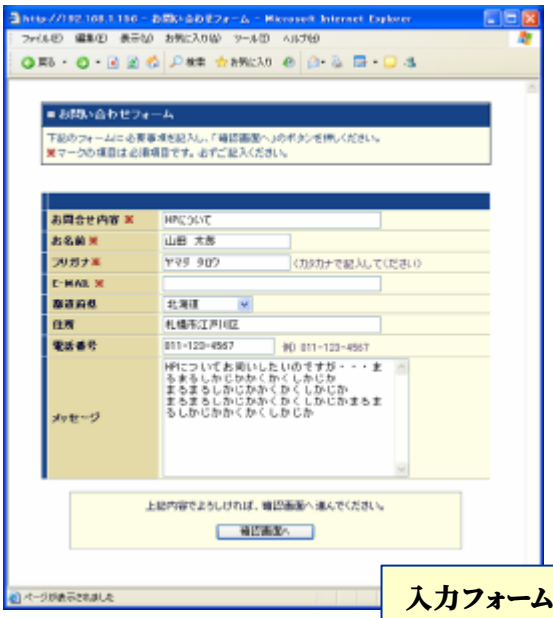
※ フォーム動作用CGIプログラムはチャンネルを作成した数だけ複製して設置することが出来ます。
フォームの確認画面がチャンネルごとに別々のフォルダに入っている場合、各フォルダに「form.cgi」をおいてください。
ただし、複数のフォルダにフォームが存在する場合でも確認画面が一つしかない場合は、form.cgiは1つになります。

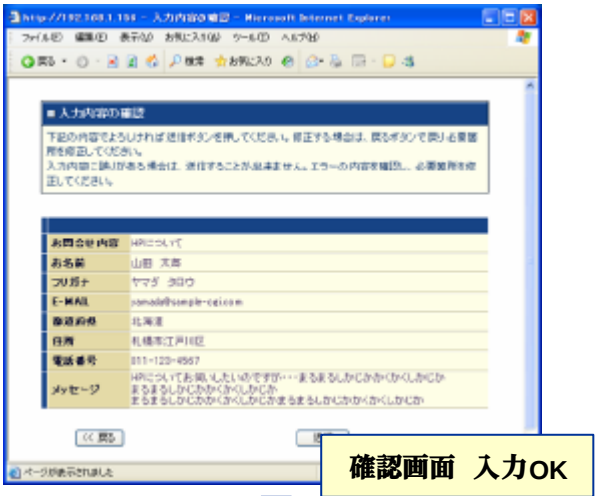
Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

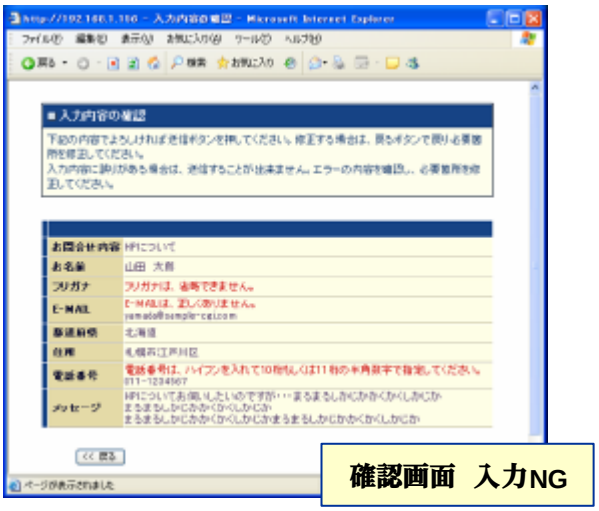
5. フォームの登録・作成

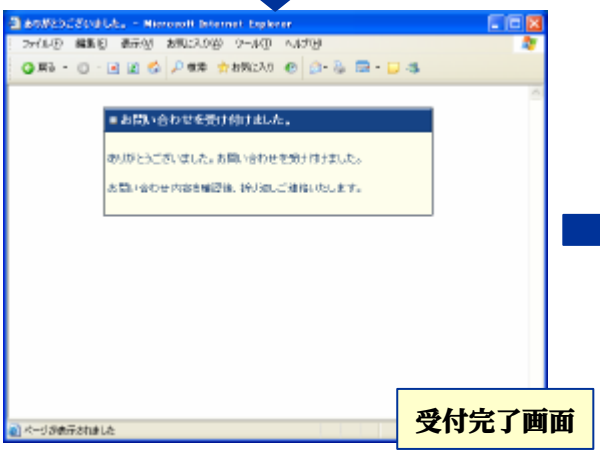
5－9. 動作確認

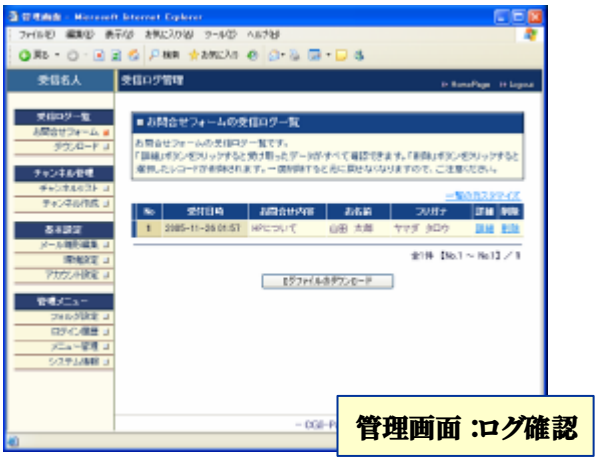
すべての設定が完了したら、関連ファイルをすべてFTPでサーバにアップし、ファイルのパーミッション等すべて確認してください。
設置が完了したら、フォームのページにアクセスし、動作確認を行ないます。
まずは、入力値条件が正しく設定されているか確認するため、わざと間違った値を入力したり、何も入力しなかったりし、正しくエラーを返すか確認してください。
エラー内容を確認したら、確認画面も正しく表示されているかも確認してください。
問題なければ、フォームに正しい内容で入力し、メールが正常に送信されるか確認してください。受付メール、自動返信メールとも正しく受信出来ていれば動作確認完了です。











Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.
CGI-Park WEB SYSTEM VENDOR

6－1. 管理画面へのログイン履歴

✍ 管理画面へのアクセス履歴を確認する

本ソフトでは、管理画面へのアクセス履歴をすべて保存しています。記録する項目は、「アクセス履歴」「ログイン履歴」「ログアウト履歴」で、すべての項目に対して、「日時」「ログインユーザー名」「アクセス元ホスト情報」などが記録されます。

✍ アクセス履歴

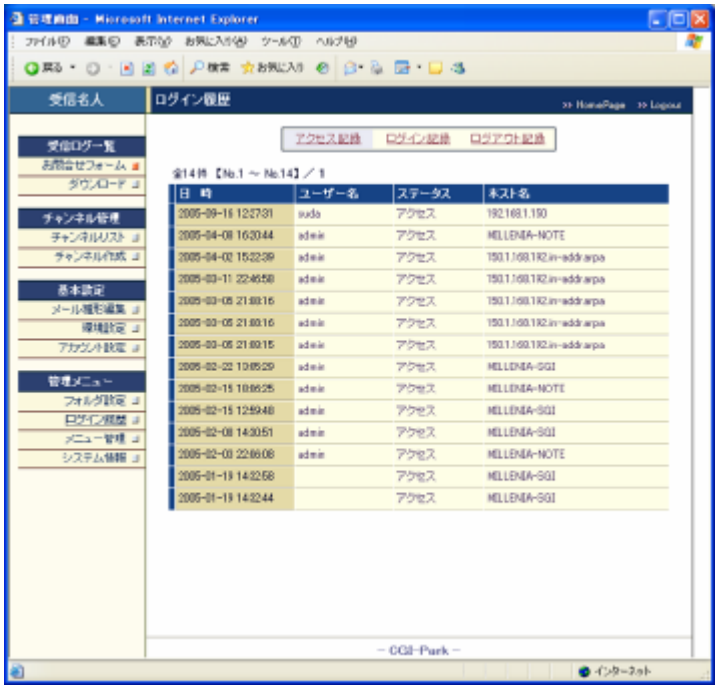
管理画面へ一度ログインするとデフォルトでは、10日間クッキーが保存され、ログインを行なわなくても、管理画面にアクセスできるようになります。
そのようにクッキーを利用してログインした管理者の履歴を、前回のアクセス日時から6時間以上経過した場合、新たなアクセスとして記録されます。

✍ ログイン履歴

管理画面にユーザー名とパスワードを使ってログインした場合、ログイン履歴として記録されます。
ログイン履歴は、どのユーザーがログインしたか、また、ログインは成功したか失敗したかが記録されます。
たとえば、登録されていないユーザー名で何度もログインを行なって失敗している形跡があると、悪意のある第三者が不正にログインを行なおうとしている痕跡かもしれません。

✍ ログアウト履歴

管理画面からログアウトを行なった、ユーザーと日時、ホスト名が記録されます。



ログイン履歴照会画面

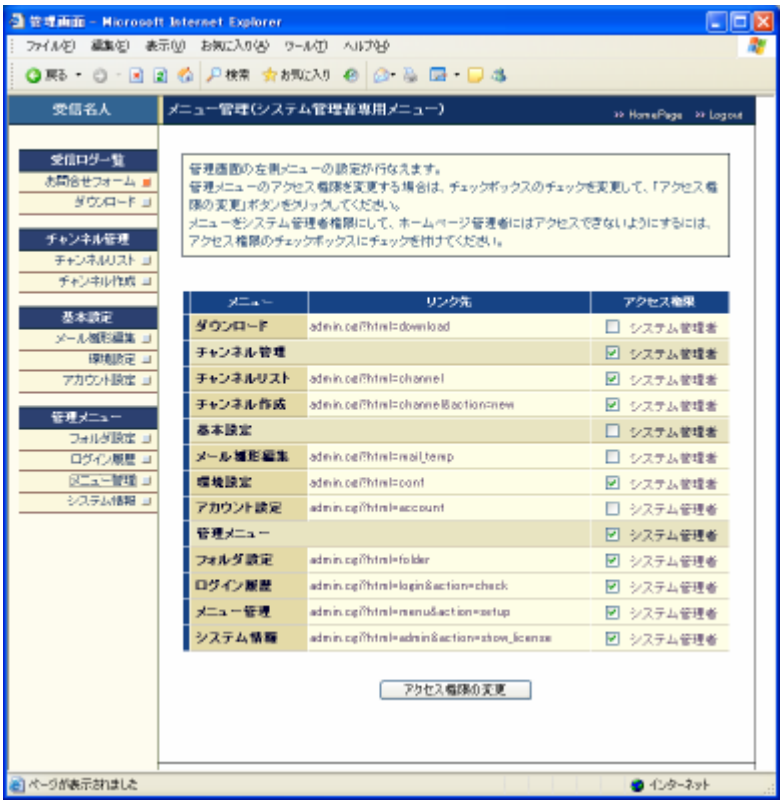
Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

6－2 管理メニューの設定

✍ 管理画面のメニューアクセス権限を設定する

管理画面の左側メニューのアクセス権限設定が行なえます。
システム管理者向けのメニューなのか、ホームページ管理者向けのメニューなのかを切り替えます。
通常は特に変更する必要はありませんが、システム管理者向けのメニューをホームページ管理者でもアクセスできるようにしたり、逆にホームページ管理者向けのメニューをシステム管理者専用のメニューに変更したりする際に、ここで設定を行ないます。

管理メニューのアクセス権限を変更する場合は、チェックボックスのチェックを変更して、「アクセス権限の変更」ボタンをクリックしてください。
メニューをシステム管理者権限にして、ホームページ管理者にはアクセスできないようにするには、アクセス権限のチェックボックスにチェックを付けてください。

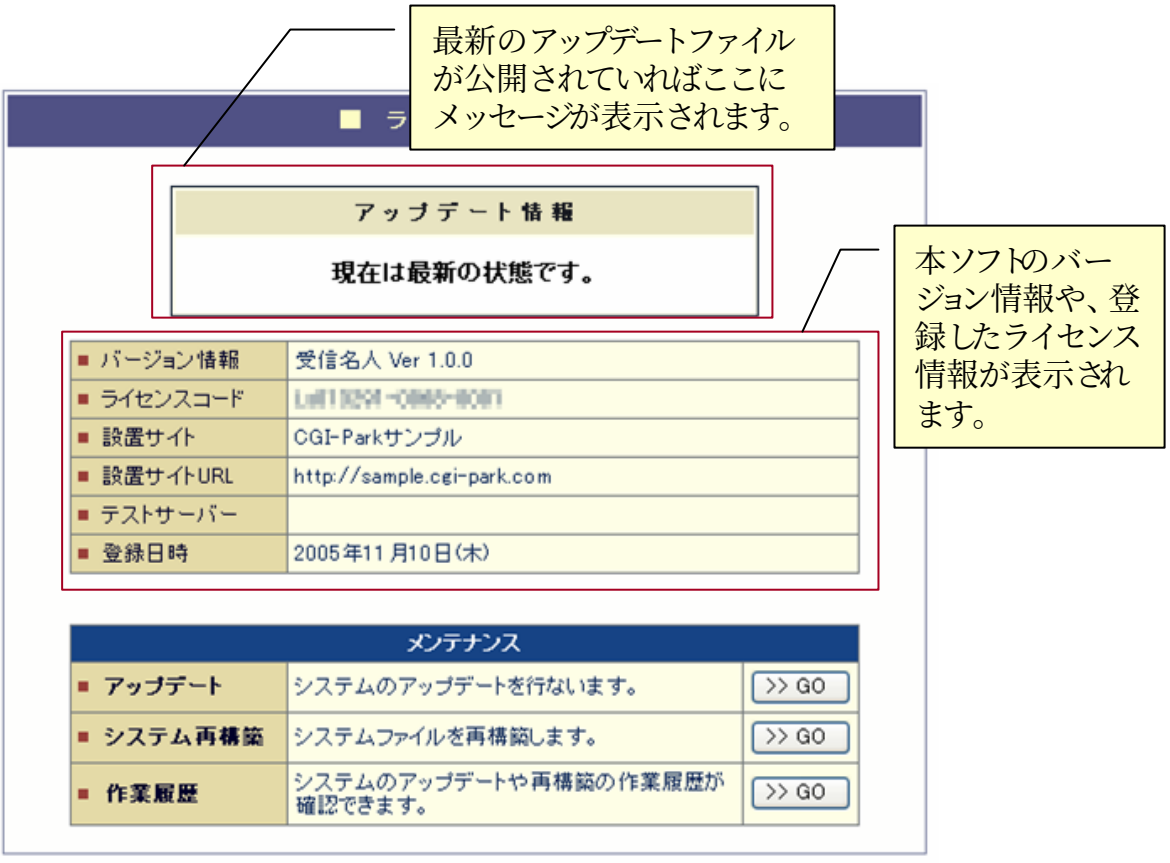


メニュー設定画面

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

6－3. 本ソフトのライセンス情報について

管理メニューの「システム情報」を選択すると、本ソフトに登録しているライセンス情報や商品のバージョン情報が確認できます。
また、CGI-Parkの商品データベースにアクセスし、最新のアップデートファイルが公開されていないか、確認します。もし、最新のアップデートファイルが公開されていれば、アップデート情報の欄に 最新のアップデートファイルが公開されています」といったメッセージが表示され、アップデートファイルが公開されているページのリンクが表示されます。



システム情報

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

6－4. システムのアップデート (1/2)

✍ アップデートについて

CGI-Parkのホームページより最新版のアップデートファイルを入手したら、管理メニューの「システム情報」より、アップデート作業を行なうことが出来ます。
アップデートファイルは、必ず現在利用している製品のバージョンに対応したものを入手してください。
アップデートファイルが複数公開されている場合は、一番古いものから順に当てていってください。順番を間違えると正しくアップデートが行なわれません。

✍ アップデートファイルの種類

アップデートファイルには2種類あり、一つはプログラムファイルや設定ファイルを新しいものにおきかえるというもので、もう一つは実行ファイルが含まれており、アップデートを実行するとプログラムが起動し、システム内の情報を書き換えるタイプのものです。アップデートファイル内に「exe.pl」が含まれている場合は、後者の実行ファイル入りのアップデートファイルとなります。

✍ 注意事項

・本ソフトは、基本的には改造不可としていますが、もし、何らかの改造を加えた場合は、アップデートを行なうことで、改造を施したファイルが最新のファイルに上書きされ、元に戻ってしまう可能性があります。
独自に改造を行なっている場合は、アップデートは行わないでください。

・アップデート処理は、設置しているサーバの環境により正しく行えない場合もあるかもしれません。万が一のトラブルに備え、事前にログファイル等をバックアップしてからアップデートを行なうことをおすすめします。
万が一アップデートにより、システムが破損してしまった場合でも、当社では一切責任を負いかねますので、アップデートを実施する際は、バックアップをとった上で自己の責任において実施してください。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

6－4. システムのアップデート (2/2)

✍ アップデートの開始

1. 管理メニューの「システム情報」を選択し、「アップデート」という項目のボタンをクリックします。
2. 「参照」ボタンをクリックし、CGI-Parkホームページより入手したアップデートファイル（拡張子が.cpmとなっているファイル）を選択し、「開く」ボタンを押してください。（図1）
3. ファイルを選択したら「確認」ボタンをクリックしてください。誤ったアップデートファイルを選択したら、エラーメッセージが表示されます。正しいファイルを選択しなおしてください。
   正しいアップデートファイルを選択したら、アップデート内容の説明や、更新対象のファイル等の情報が確認できます。（図2）
4. アップデート情報を確認し、内容に問題がなければ「アップデート実行」ボタンを押してください。アップデートが実行され、システムの更新が開始されます。
5. アップデート処理が終了すると、アップデートの完了画面が表示されます。これでアップデート処理は正常に終了しました。

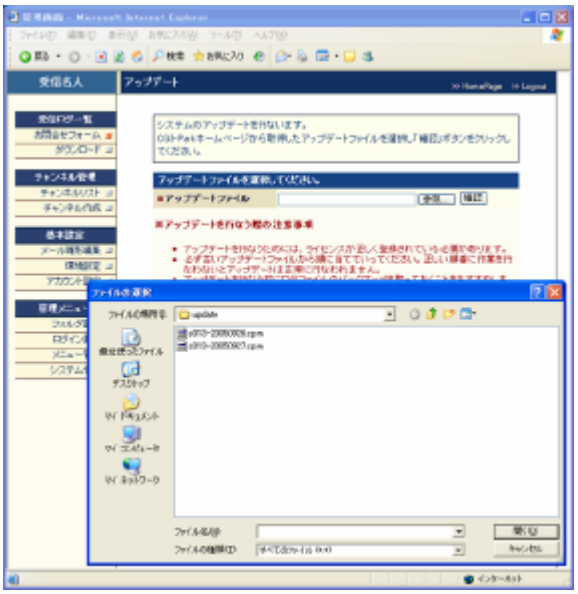


図1：アップデートファイルの選択

図2：アップデートファイルの確認

✍ アップデート履歴の確認

アップデートを行なった日時や処理内容が履歴として保存されます。
「システム情報」ページの作業履歴の項目のボタンをクリックすると今まで行なったアップデート作業等が表示されます。

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.

6－5. システムの再構築

✍ システムの再構築について

プログラムファイルやHTMLデザインファイル等が万が一破損して正しく処理が行えなくなってしまった場合、最後にアップデートを行ったときの状態にシステムを復元することが出来ます。

✍ 再構築を実行するうえでの注意事項

・本ソフトは、基本的には改造不可としていますが、もし、何らかの改造を加えた場合は、再構築を行なうことで、改造を施したファイルが元のファイルに上書きされ、元に戻ってしまう可能性があります。

・再構築処理は、設置しているサーバの環境により正しく行えない場合もあるかもしれません。万が一のトラブルに備え、事前にログファイル等をバックアップしてから再構築を行なうことをおすすめします。
万が一再構築により、システムが破損してしまった場合でも、当社では一切責任を負いかねますので、再構築を実施する際は、バックアップをとった上で自己の責任において実施してください。

✍ 再構築を実行する

1. 管理メニューの「システム情報」を選択し、システム再構築の項目のボタンをクリックしてください。
2. 再構築の確認画面が表示されます。（図1）
   更新対象ファイルという項目で表示されているファイルが、再構築を実行するファイルの一覧です。もしこの中に更新したくないファイルが含まれている場合は、再構築は行わないでください。再構築を行なうことで、初期状態に戻ってしまいます。
3. 更新ファイルを確認し、再構築を行なってもよろしければ「再構築を実行」ボタンをクリックしてください。再構築の処理が開始されます。
4. 処理が完了すると、再構築の完了画面に切り替わります。これで、再構築処理が正常に終了しました。

図1：再構築の確認画面

Copyright (c) 2005. MilleniaNet. All rights reserved.